



学園報 第55号

発行・編集 / 学校法人皇學館 企画部
TEL:0596-22-6496・8600

●大 学 大学院・専攻科・文学部・教育学部・現代日本社会学部
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704
TEL:0596-22-0201(代表) FAX:0596-27-1704
●高等学校・中学校 三重県伊勢市楠町138
[高 校] 〒516-8577 TEL:0596-22-0205(代表)
[中 学] 〒516-8588 TEL:0596-23-1398(代表)

注目記事

- 1面
平成26年度 学位記・修了
証書授与式を挙行
- 2面
卒業生随想
- 3面
高・中で卒業式
- 4面
三重県教育委員会と連携協定締結
- 5面
19社が学内企業説明会
- 6面 (高校・中学校)
建国記念の日の講演 ほか
- 7面
第2回「伊勢」と日本スタディ
プログラムを開催
- 8面
教育学部・卒業記念ミュージカルを開催
- 連載
4面
皇學館人物列伝② 酒井秀夫
- Kらいふ(全学一体第161号)
退任によせて ほか



卒業生を代表し、堂々と答辞を読み上げる奥村さん(国文)



清水学長から学位記を手渡される総代たち

一隅を照らす国の宝となれ

春の到来を思わせる暖かい日差しの中、平成二十六年度学位記・修了証書授与式が挙行された。この日に旅立ちの時を迎えた学生は七〇三名。

三月十八日、記念講堂において平成二十六年度の学位記・修了証書授与式が厳かに執り行われた。この日、晴れて門出を迎えたのは三学部合計六六七名、神道学専攻科二十五名、大学院十一名の合計七〇三名。それぞれが倉田山で過ごした思い出、日本の未来を担う高い「志」を胸に、新しい舞台へと果立っていった。

高い「志」を胸に七〇二名が船出

平成二十六年度学位記・修了証書授与式

い表情で学位記・修了証書を受け取った。次に恩賜奨学賞、大宮司賞などの受賞者十名に賞状と記念品が手渡された。

清水学長は式辞の中で東日本大震災を取り上げ「諸君が入学したのは大震災・大津波・放射能汚染という戦後最大の惨禍の直後。大自然の脅威は自然への畏怖と畏敬、人の生死と運命、家族が持つ意味を根本から問い直す機会となった」と述べた。その一方で、卒業生らが二年生の時に行われた本学創立百三十周年・再興五十周年記念事業、三次に亘り行われた第六十二回神宮式年遷宮、さらに四年次の別宮

の御遷宮と記念すべき行事を身近に見聞できたことは、またない好機であったと語った。さらに学長は「科学の時代といわれる二十一世紀に、最も大切なのは科学技術で代用できない人間の心、換言すれば叡智であり道義である。今、二十一世紀の自然科学の適切な利用を図るために、人文科学出身の人材こそが重要だ」と卒業生を激励。最後に「一隅を照らす、此れ則ち国宝なり」という先哲の言を引用し「名誉や地位を求めのではなく、自らの周辺を明るく照らし、世の中に希望と勇気を与える国の宝となしてほしい。」

平成26年度 学位記・修了証書授与式 受賞者等一覧

総 代	大学院文学研究科博士後期課程国文学専攻	神 田 ひろみ
	大学院文学研究科博士後期課程国史学専攻	大 友 裕 二 紀 戸 佑
	大学院文学研究科博士前期課程国史学専攻	小 林 郁
	大学院教育学研究科修士課程教育学専攻	若 葉 京 良
	神道学専攻科	竹 内 千 里
	文学部神道学科	渡 邊 真 悠
	教育学部教育学科	杉 山 恵 梨
恩賜奨学賞	現代日本社会学部現代日本社会学科	柴 原 つばさ
	文学部神道学科	井 階 正 浩
	文学部国史学科	菅 野 慈 子
	教育学部教育学科	長 嶋 沙都子
大 宮 司 賞	現代日本社会学部現代日本社会学科	丹 羽 香奈絵
	文学部国文学科	杉 森 亮 子
	文学部コミュニケーション学科	松 田 明 子
理 事 長 賞	神道学専攻科	辻 忠 雄
	文学部神道学科	奈良崎 勝 彦
学 長 賞	文学部神道学科	大 谷 こずえ
	文学部国文学科	石 原 亜 純
統 理 賞	文学部神道学科 3 年	桑 原 和 瑳
	文学部国文学科	奥 村 詩 織
社会福祉士養成校の養成課程修了者に対する協会表彰		
現代日本社会学部現代日本社会学科		濱 口 実 央
精神保健福祉士養成校の養成課程修了者に対する協会表彰		
現代日本社会学部現代日本社会学科		世 古 口 さ お り
保育士養成課程の卒業生に対する会長表彰		
教育学部教育学科		山 本 恵 理 佳



石原さん(国文)



杉山さん(教育)



川村君(神道)



丹羽さん(現日)

得がたい体験を重ねた四年間

卒業生総代として学位記を受け取ったのは教育学科の杉山恵梨さん。皇學館大学での最高の思い出は、よさこい部の副部長として百名を超す部員を導いたこと。ここで学んだ責任感や客観性は、先生の仕事に必ず活かせると思う」と、社会人生活

それが、今日まで諸君を育んでくれたすべてのご恩に報いる道である」と結び、洋々たる未来に船出する卒業生にはなむけの言葉を贈った。

在学生の送辞に続いて卒業生を代表して国文学科の奥村詩織さんが「入学した頃は断片でしかなく、未来をつくる力をつけた」と将来への決意を熱く語った。

に向けた期待を述べた。大宮司賞受賞の現代日本社会学科・丹羽香奈絵さんは「東日本大震災の被災地に小型の漁船を送る『べかプロジェクト』に参加し、多くの感謝の言葉をいただいたことが最大の思い出と振り返った。長谷奨学賞を受賞した国文学科の石原亜純さんは、目標だった神職と教職の資格をどちらも取得できたのは、丁寧に指導していただいた先生のおかげ。将来は人間関係の大切さを生徒に教えられたい」と熱く語った。

大正八年(一九一九)に上演が始まった『月形半平太』に「春雨じゃぬれて行こう」という有名な台詞がある▼「春雨」を「はるさめ」と読むが、この言葉は万葉集にも「波流佐米」と書かれて奈良時代にはすでに成立していたことが知られる▼ただし、万葉集のほうは「ぬれて行こう」というような粋な雨ではなかったらしく、大伴家持が壱田地の検察に出かけて春雨に降り込められて帰れなくなった時のことを歌ったもの▼この「春雨」、本来「はるさめ」となるはずの語構成だが、一語としてのまとまりを付けるために「はる」と「あめ」の間に「S」の音を加えたと考えられる。現代語にも「小雨」「霧雨」「氷雨」などがあって、いずれも「さめ」と発音している▼「雨」が後ろに付けばいつも「さめ」になるかといえは必ずしもそうではなく「大雨」などはそのままだ「あめ」であるから言語の規則性というのは一筋縄にはいかないものだ▼さて、平成二十六年度皇學館大学学位記・修了証書授与式は晴天の下で行われた。晴れの儀というのは儀式を一部省略する雨儀に対する言い方由来するという。卒業生諸君の晴れの門出である。



卒業生随想

春からそれぞれの志す道を歩き始める卒業生たち。学生生活を振り返り、彼らの胸中に去来するさまざまな思いを語ってもらった。

祭式研究部と共にあった大学生活

神道学科 井 階 正 浩

就職先 神宮



私の大学生活は、祭式研究部と共にあった。右も左もわからない私をこ

卵にふさわしい濃厚な大学生活を送ることができた。三年時には部活の代表を務めることになり、一団体を率いていく責任感と物事を推し進めていく実行力、また、円滑な人間関係による組織運営など、今後の社会生活に必要な技術を身をもって学んだ一年となった。

クラスにおいても、四年間代表を務めさせていただき、最後に皆で完成させた修了奉告祭は生涯忘れ得ない体験となった。二年時から大学の特待生として、神職課程、教職課程、博物館学芸員課程と、神道の精神に立脚しながら多くの学びを得ることができた。今後は大学で学んだ技術を生

期待より不安な思いが強い中で皇學館大学に入学し、四年が経った。この四年間で授業、クラブ活動に加えてオープンキャンパスのスタッフ、百船での活動、学生アシス

かし、国家のため、国民のために御奉仕できる神職へと成長していきたい。

自分に正直になれた四年間

コミュニケーション学科 水口 真 奈

就職先 松阪ケーブルテレビ・ステーション



「やればできる」。この信念ひとつで突っ走ってきた、あつという間の四年間。思えば今まででいちばん自分に正直になれた時間だった。高校時代、それまで人の目ばかり気にしていた私に、自分の意思を伝える意味を教えてくれた親友たちに改めて「ありがとう」と言いたい。おかげで、皇學館大学でしっかりと自分を鍛え上げることができた。学生として最も費やす時間の長かった勉学。机にかじりついて、只々知識を詰め込んだり、単に単位を取得するだけの勉

したことである。人生の岐路に立たされた就職活動。入学当初、教員しか頭になかった私がめざしたのはアナウンサー。突き放されようが、馬鹿にされようが「見返してやる」と絶対あきらめなかった。悔しさと焦りの中で、支えてくれる存在の大きさに気づくことができた。中味の濃い学生生活をこの大学で送れて本当によかった。

育実習は苦悩の日々であったが、自分の夢に近づいていると思うと毎日が楽しかった。そして四年生。何度も面接練習をし、時には教職支援室の先生方に相談に乗っていた。そして、友と励まし合いながら試験を乗り越え、夢を叶えることができた。卒業記念ミュージカルでは、仲間と一年をかけて一つの作品を創り上げた。お客さんから拍手をいただいた時は感動で涙が止まらなかった。

私がこのように充実した大学生活を送ることができたのも、友、先生方、職員の方等、多くの支えがあったからだ。心から感謝している。皇學館大学で過ごした四年間のかげがえのない思い出を胸に、四月からまた新たな環境で日々精進していきたい。

多くの支えによって充実した大学生活に

教育学科 長 嶋 沙 都 子

就職先 三重県・小学校



大学生活はかけがえのない四年間であった。一年生は先輩方のアド

バイスが優しく、縦の繋がりを感じた。二年生は本格的に専門科目が始まり、講義の中で模擬授業に苦しんだが、授業をする上で大切なことを多く学んだ。三年生の時の教

私の大学生活は多くのひととの出会い、つながりに恵まれた四年間だった。今思い返してみれば、寮生活や部活動、研究会活動は私を大きく成長させてくれた。

とくに思い出に残っているのは地域社会研究会の活動だ。伊勢を盛り上げようと活動を行い、伊勢市役所の方や新道商店街の方と協力してイベントや活動を行ってきた。伊勢市内の企業と連携して企画した「宇治山田の和紅茶」は、私の中でもとくに思い出深い。全国

恩師、仲間との出会いに感謝

国文学科 宮 路 夏 実

就職先 JA 志東部



タントなど、私は大学においてさまざまなことを経験する機会をいただき、これからの人生で必要となる多くのことを学んだ。また、その中で私は今の自分を育てていただいた恩師と出会い、かけがえのない仲間と出会った。先生方から受けたさまざまな刺激と示唆は、私にとって前を向いて進んでいくための元気の源となった。いつもそばで見守っていただいた先生方に感謝したい。そ

してこの大学で出会った仲間が私が一番信頼できる一生の友である。毎日他愛もないことで笑い合い、就職活動やクラブ活動、卒業論文では共に悩み、闘った。彼らがいて

くれたからこそ、今の私がある。四月から私は社会人になる。皇學館大学の卒業生として誇りと責任を持ち社会に貢献していけるよう頑張りたい。

当初は不安で一杯だった。しかし、講義に部活動、ボランティア活動と、大学生活におけるさまざまな体験を通じて、一人、また一人と自然に友人ができた。そうして、気が付けば初めに抱いていた不安な気持ちはすっかりなくなっていた。やはり、人と人との繋がりはかけがえのないものだということ、この四年間で培った経験を活かし、皇學館大学の名に恥じないよう、そして一人の社会人として、少しでも日本のために役に立てるようにこれからも頑張っていきたいと思う。

大学で学んだことを社会に活かす

現代日本社会学科 陶 山 貴 史

就職先 山陰中央新報社



でも有数のお茶の生産地である三重県、伊勢茶をPRするために、私たち若者だからこそできる方法はないのか、若者の急須離れを何とかできないのかという思いを抱え、試行錯誤した日々。いくつもの困難や課題があり

とても大変であったが、今となつては良い思い出である。伊勢の地に来ていなければ、このような出会いがなかったであろう。四月からは故郷である島根県に戻り、働く。教えてくださった先生方、多くの出会いに感謝し、大学で学んだことを活かしながら精進していきたいと思う。

のは人との出会いだ」という。実際、就職活動と四年分の学業を一年で終えなければならぬカリキュラムは一人の力で乗り越えられるほど簡単なものではなく、大学で出会えたたくさんの人とのつながりがなければ、私は一年を無事に暮らすことも、専攻科を修了することもできなかっただろう。

つながりがあるからこそ、不可能も可能となり、人生にも張りが出てくるものだ確信している。私はこれから多くの仲間たちとともに神職としての人生を歩み始めるが、神職は「ナカトリモチ」と言われるように、縁と縁をつなぐ存在だ。これからも仲間たちと力を合わせ、縁をつないでいけるよう、精進していきたい。

二年前の今頃、私は学部卒業生として晴着を身に纏い、多くの仲間と共に四年間の思い出の場に立っていた。そして現在、博士前期課程の修了生として再びこの日を迎えられると思うと、感慨深いものがある。思えば、この二年間は勉学に没頭できた毎日であった。少人数体制で行われる大学院での講義・演習は学部より水準が高く、先生方から幅広く、より深く歴史学をご教授

絶え間ない努力と溢れる向上心を、これからも

大学院博士前期課程国史学専攻 小 林 郁

進学先 本学 博士後期課程国史学専攻



ももちろん、大学院で学べたことは授業内容だけではない。学部生を指導するティーチング・アシスタントでは専門分野を指導することの難しさ、学外の活動等では地域社会と繋がりを持ち貢献することの大切さを痛感し、自分自身で大きく成長することができたと実感している。修士論文を含め、この二年間で経験し学んだことは、私の誇りである。これらを糧とし、次に繋げていきたい。

神職はナカトリモチ。縁をつないでいきたい

神道学専攻科 猪 股 弘 樹

奉職先 石切御箭神社



神道学専攻科に入学してから一年はとても濃密で、充実したものとなった。

大学や実習を通じて個性豊かな仲間、大学の先生方や神職養成部、実習先の神職の方々等と出会えたことは、一生の宝だ。私をここまで導いて下さった方々は、皆口を揃えて「人生で最も尊いも

輝く未来はこれから努力にかかっている

第五十回 皇學館高等学校卒業式

皇學館高等学校の第五十回卒業式が三月二日、厳かに執り行われた。今年度の卒業生は三六六名。国歌斉唱、会旨奉誦、卒業証書授与、賞状授与に続き式辞を述べた中村

貴史学校長は、最初に「清明正直に、つねに明るく、正しく、まっすぐに生きていってほしい」と建学の精神に触れた上で、吉田松陰の「志の赴く所、心の安んずる所、為して可ならざるはなし」との言葉を引用。自分が強く願った皇學館高等学校は昨年度、創立五十周年を迎えました。記念式典に列席させていた

卒業生総代 大畑 綾 音

答辞(抜粋) 皇學館高校で学んだことを原点に

皇學館高等学校は昨年度、創立五十周年を迎えました。記念式典に列席させていた



神宮を参拝し、無事卒業の日を迎えた感謝の思いを奉告



堂々と答辞を読み上げる大畑さん

皇學館高等学校は昨年度、創立五十周年を迎えました。記念式典に列席させていた

「古文書(くずし字)を読めるようになる」との学生の声を受け、本物の古文書に触れる機会を増やそうと本学国史学科では三重県総合博物館(MieMu)との相互協力協定に基づき、同館所蔵の近世文書資料の整理作業体験を企画。三月四日から六日にかけて行われた同企画には「古文書学」を受講済みの国史学科の学生を中心に二十二名が参加し、現物を用いた初めての整理作業に取り組んだ。



指導を受け慎重に古文書を扱う学生

MieMuで 古文書整理体験

受取人をカードに記入していくといった整理作業を行った。「手を洗いきれいにしておく」「おしゃべりをしない」「つばをつけてページをめくらない」といった古文書整理に際しての注意事項を厳密に守りつつ、作業に没頭した学生たち。実際の歴史資料を前に緊張しつつも感激したようで、「実物の古文書に触れ、直にくずし字を読むことができたのは貴重な経験」「古文書や文化財を後世の人に伝えていく義務があるとおっしゃっていた学芸員の方の言葉が心に響いた」などと感想を語った。

なお、同企画は今後も継続して毎年春休みに開催する予定だ。

時間を大切に、精一杯の努力を

第三十四回 皇學館中学校卒業式



式辞に耳を傾ける生徒たち

三月十四日、セミナーホールにおいて皇學館中学校の卒業式が執り行われ、五十六名の卒業生が晴れやかな表情で式に臨んだ。

式辞の中で中村貴史学校長は「君たちは今、中学生から高等学校生へと時間の区切りをつける、

この場に立ち会って、人間の一生において、時間の区切りをつけることはとても大事なことです。それは、時間の大切さを私たちに教え、思い出させてくれるからです」と語り、「今しくはないけれど、今にエネルギーを集中して精一杯努力することが結果として充実した知識と行動をもたらす、優れた人間性に結びつきます」と説いた。そして、日本の偉大な思想家である道元禪師の言葉「寸陰スツルコトナカレ。專一ニ功夫スヘシ」を紹介。「少しの時間もおろそかに無駄にせず、与えられた課題をどう解決していくか工夫して、つねに努力し続けていくください」と期待を込めて語った。

三年間、私たちを支えてくださった保護者の皆さん。この素晴らしい皇學館中学校で学ぶ機会を与えてくださり、本当にありがとうございます。私たちをご指導くださった先生方。先生方の下で、どんな困難にも仲間と助け合って立ち向かう心意気を、転んでも何度だって立ち上がる根性を、努力の生み出す自信という翼を身に付けることができました。大切な後輩の皆さん。これから学校生活、皇學館中学生としての自覚を持ち、何よりも挨拶と感謝の気持ちを忘れないでください。この人としての基本が、きっとあなたたちの強みとなるでしょう。

三年前の私たちは慣れない制服に身を包み、緊張して入学式を迎えました。少し大きめの制服は気恥ずかしさも嬉しく、生徒玄関に立てられた入学式の看板の前で記念撮影をしたことを覚えています。



答辞を読む志村君

入学してすぐの思い出は、朝熊山フィールドワ

「コンソーシアム三重」が 教職員交流事業を実施



コンプライアンス実践についての講義を聞く出席者

学園報第五十四号で既報の通り、高等教育機関としての魅力向上に連携して取り組んでいくことと、本学を含め県内八つの私立高等教育機関で組織された「コンソーシアム三重」その連携協力事業の一つ、教職員の資質向上を目的としたFD(教員・SD(職員)交流事業「公的研究費ガイドラインに関するコンプライアンス研修」が二月十六日、津駅前アストホールで開催された。

この研修は、平成二十六年二月十八日に文部科学省が「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)」の改正を発表し、各機関においてコンプライアンス教育が義務化されたことを受け実施したものである。研修では講師を務めた有限責任監査法人トーマツの赤尾聡氏より「誠実な組織行動が大学の利益や価値の向上につながる」「不正をしない風土とさせない仕組みが必要」といった内容が語られた。コンソーシアム三重より参加した一九四名の教職員からは研究倫理についての認識が深められたとの意見が多く聞かれ、大変有意義な研修会となった。

三重県教育委員会と連携協定締結

皇學館大学と三重県教育委員会との連携協定調印式



3月20日に行われた連携協定調印式。左から、西谷豊局長、田浦雅徳地域連携推進委員長、清水潔学長、三重県教育委員会の山口千代己教育長、信田信行副教育長

本学では三月二十日、三重県教育委員会と連携協力に関する協定を締結。両者でこれまでスポーツ的に実施してきた取組みを組織的・継続的に行うとともにさらに連携を深め、三重県の実践的な指導方法の習得をめざすべく、三重県教育委員会の山口千代己教育長、信田信行副教育長、清水潔学長、田浦雅徳地域連携推進委員長、西谷豊局長の5名が出席し、調印式が行われた。

- 本学と三重県教育委員会ではこれまで本学教員による県立高校での出前授業や県教育委員会職員による大学生対象の講義、また、ビブリオバトル大会の共催などに取り組んできた。その実績をもとに、相互の人材資源をさらに活用し、教育活動をより有効なものにする協定を三月二十日に締結。以下の七項目を連携事項として定めた。
- 1 大学における教員養成の充実
 - 2 相互の教職員の資質能力の向上
 - 3 相互の教育活動への支援
 - 4 高校教育と大学教育との接続
 - 5 学校における体育・スポーツの支援
 - 6 社会教育の充実及び文化財の保護
 - 7 その他両者が必要と認める事項
- これらの連携事項に基づき、今後、学校や地域で教育活動に取り組む人材を外部講師として大学の講義等へ招聘したり、実践的な指導方法の習得をめざすべく、学生が学校授業の見学を積極的に行うほか、「英語キャンプ」や「みえ未来人育成塾」など県内のグローバル人材育成活動への学生の参加及び大学教員による支援、インターハイや国民体育大会運営の主力となる指導者、選手の育成等に取り組む。

本学は卒業生の約七割が県内に就職するなど、地域を担う中核的人材を輩出してきた。とくに教育学部では学生の多くが

生涯学習振興で連携

三重県文化振興事業団と協定締結



握手を交わす清水潔学長と三重県文化振興事業団の飯田俊司理事長(右)

このたび本学と三重県総合文化センターを管理する公益法人三重県文化振興事業団は相互の教育研究資源を活用し、生涯学習の振興を通じて地域の活性化を図ろうと、三月五日に「生涯学習振興に関する連携協力協定」を締結した。教育文化施設と高等教育機関による生涯学習分野での連携協定は県内では初の事例だ。

- このたび本学と三重県総合文化センターを管理する公益法人三重県文化振興事業団は相互の教育研究資源を活用し、生涯学習の振興を通じて地域の活性化を図ろうと、三月五日に「生涯学習振興に関する連携協力協定」を締結した。教育文化施設と高等教育機関による生涯学習分野での連携協定は県内では初の事例だ。
- 1 協定締結にあたり、合意したのは次の六項目。
 - 2 三重県の生涯学習振興の支援
 - 3 専門性を活かした高度な学習機会の提供
 - 4 学校教育活動等における支援
 - 5 インターンシップ等就業体験の受入
 - 6 各種会議等への有識者派遣

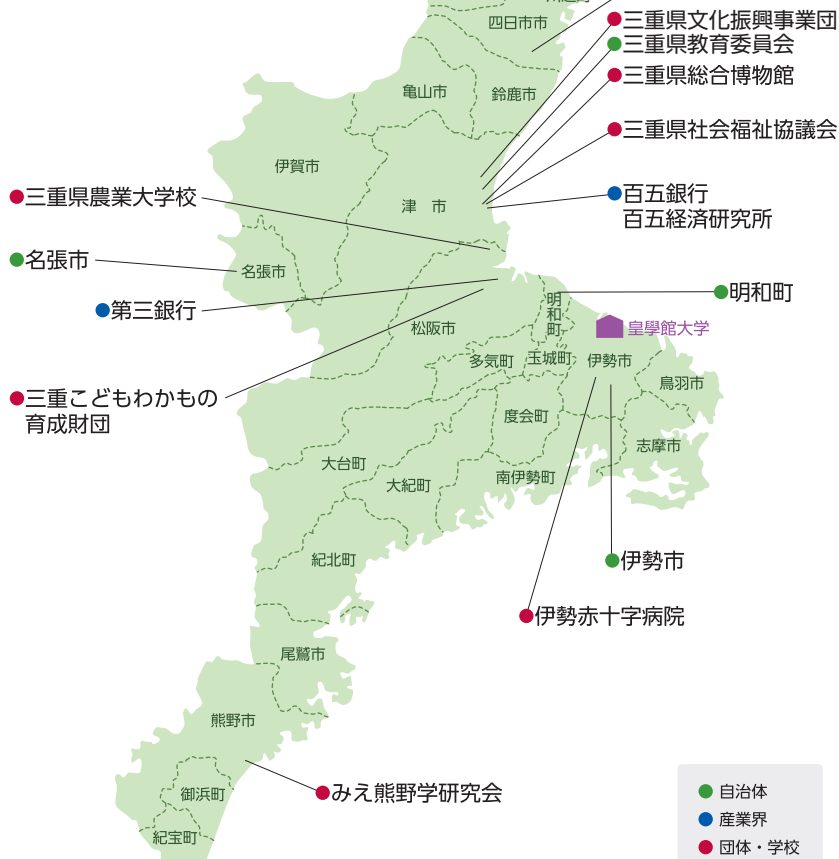
県民にとっては高等教育機関での学習機会が増えることができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない」とある。今回の協定がそうした社会の実現に寄与するものと期待したい。

か、教育分野をめざす学生が学校へ赴き地域の教育実践を見たり、地域人材をゲストスピーカーとして講義に迎え入れることで教育の質の向上が期待できるなどメリットは大きい。さらに、三重の魅力を発信しようと三重テラス(東京)でのセミナー共催を計画 중이다。

三重県内の連携協定先

平成27年3月末時点

本学は、文化・教育・研究等の分野で相互に機能向上を図るとともに、地域の活性化と人材の育成を図ることを目的として、積極的な連携を行っています。



皇學館 | 人物列伝 | 25

酒井 秀夫 (さかい ひでお)

明治35年愛知県生。昭和2年東京大学文学部卒業。岡崎師範学校専攻科講師を経て昭和3年神宮皇學館教授。昭和17年神宮皇學館大学予科教授。廃学後、金城学院大学教授。1902～1981。



『やちまた』の白江教授のモデル

「白江教授の文学概論の時間であった。教授は三十歳なかばであつたろうが、目も声も物腰も女形のように、顔はノートに伏せたままで講義をつづけていた。髪がなめらかな白いひたいに垂れかかり、高い鼻梁がいつそう秀でて見える。それでいて、黒板に書く白墨の文字は、大きく力が張って粘着している。足立巻(人物列伝)の『やちまた』である。本居春庭の事跡を探求していく様子を丹念に描くこの作品からは同時に神宮皇學館の様

を知ることもできる。本居宣長の息子の春庭は盲目の語学者で活用の種類を分類してた人物である。足立巻一がこの春庭の存在を知ったきっかけが冒頭に引用した白江教授の文学概論という授業であった。

白江教授にはモデルがある。酒井秀夫がその人である。酒井は明治三十五年(一九〇二)名古屋市中区で生まれた。旧制愛知一中、第八高等学校を経て東国文学科を卒業。岡崎師範学校で一年教鞭をとった後、昭和三年(一九一八)三月神宮皇學館に講師として赴任。同年十月に教授となった。

酒井の講義は明晰で一種のリズムがあつたという。スマートさが酒井の特徴であった。ノートはローマ字で書かれていた。これは語の活用を説明するとき、母音の交替を考え合わせると都合がよかったからではな

昭和三十七年には神宮皇學館大学予科教授となる。二十一年廃学により依願免本官。二十四年から金城学院大学で教鞭をとった。昭和五十六年わずか一日の入院で急逝。七十九歳。

(国文学科教授 齋藤 平)

19社が学内企業説明会

新スケジュールでの就活が本格始動



興味のある企業ブースを効率よく訪ね情報収集

今年から繰り下がった就職活動日程に合わせ、県内企業十九社を招いての学内合同企業説明会が三月二日、本学で開催された。同説明会には企業就職を希望する三年生一三五名が参加し、企業担当者の話に耳を傾けた。

「大学生は学業を優先すべき」との政府要請に経団連が応えるかたちで取り決められた就職活動

参加企業	(順不同)
株式会社 赤福	
朝日ガスエナジー株式会社	
アサヒグローバル株式会社	
イセツ株式会社	
岡三証券株式会社	
株式会社 ぎゅーとら	
株式会社 サイネックス	
株式会社 鈴鹿英数学院	
住友電装株式会社	
株式会社 津松菱	
東海物産株式会社	
鳥羽シーサイドホテル株式会社	
株式会社 ヘルシーファミリー	
株式会社 マスヤグループ本社	
三重交通株式会社	
三重ダイハツ販売株式会社	
三重トヨタ自動車株式会社	
株式会社 三重平安閣	
株式会社 山口工務店	

明会開催など採用情報解禁は三年次三月、採用選考解禁は四年次八月に変更された。

これを受け、昨年度は十二月に開催した百五銀行との連携事業による「学内合同企業説明会」を、今年度は三月二日に実施。企業就職を希望する三年生一三五名が参加した。

サービス等とさまざまな業種・業態の企業が揃った。説明会では宮川泰夫現代日本社会学科部長からの挨拶の後、学生はそれぞれの関心のある企業の個別ブースを訪問。三十分間の説明を一区切りとして、入替制による計三回のブース訪問を行った。その後は六十分間のフリートタイムとなり、この時間を活用して四社目の話を聞いたり、同じ企業を再度訪ね知りたいことを質問するなど効率よく情報収集を行っていた。



担当者の説明を熱心に聞く学生たち

学生からは「短時間で多くの企業を知ることができてよかった」「その企業で働いている方と直接話をすることで雰囲気をつかむことができた」「今まで興味のなかった業界についても知ることができ、視野が広がった」といった声が聞かれたほか、企業担当者からは「就活学生の生の声を聞くことができた」「熱心に聞いてくれる学生が多く参加してよかった」「たくさんの質問があり手ごたえを感じた」との感想があり、両者にとって収穫の多い一日となったようだ。本学では今後も連携協定を積極的に活用し、学生の就職活動を全面的にサポートしていく。

本学が推進するグローバル人材育成プログラムの一環として、第三銀行の協力を得て本年度より開始された海外インターンシップを引率してきた。三月二日から八日の日程で、中国の上海地区に進出している東海地域の自動車部品関連企業にて実習を行った。参加学生は就職活動を目前に控える文学部(神道・国文・コミ)三年の三名であった。

現地で国際感覚を磨く

海外インターンシップ報告

現代日本社会学科教授 笠原正嗣



現地の中国人従業員たちと忌憚なく意見を交わす

まず、企業訪問に先立つ事前学習として、ジェトロ(日本貿易振興機構)とコンサルティング会社の上海支店を訪れた。そこでは「世界の工場」から「世界の市場」へと変化したところにある中国経済の最新情報、商慣行や税制など海外ビジネスの留意点について学び、現地スタッフ(中国人を含む)と学生の間で質疑応答を行った。

翌日以降は、第三銀行駐在員の帯同を得て、蘇州市と南通市の四つの企業にて二日間実習を行った。現地責任者との討論や稼働中の工場見学、さらに中国人従業員とのコミュニケーションや職務評価の難しさ、生活面の苦労話とともに、異文化を乗り越えての仕事の醍醐味や今後の成長可能性などを話していただいた。また、学生と同世代の現地従業員との懇談では、日系企業に勤めた動機や将来の夢、普段の生活風景など、学生ならではの質問もあり非常に有意義な時間を共有できた。同時に、中国人が持つ本物の日本への思いを感じることができた(日系企業であることを多少勘案しなければならぬが)。

参加した国文学科の伊藤志恵さんは「現場の課

「攻めの社会人養成講座」を開催

三月二十一日、本学六号館六二教室で「攻めの社会人養成講座 特別集中講座」が開催され、現代日本社会学科の学生を中心におよ百名が聴講した。

「最高の就職のために、いま何をすべきか」をテーマに催された今回の講座。オープニングで挨拶に立った遠藤司氏(平成二十七年四月より本学准教授に就任予定)は講師を務める五人のビジネスパーソンを紹介しながら「みな第一線で活躍している方ばかり。テクニ



就活では自分がどういう人間で、社会でどのような価値を出せるのか、伝えることが大事と遠藤氏



遠藤氏のゼミを受講する予定と話す滝川さん(左)と笠井さん

「失敗を繰り返せるのは学生時代だけ。今こそどんなことにもチャレンジしてほしい」と熱く語りかける津田氏

ック的な就活法ではなく、本質を感じ取って」と発破をかけた。

その後、午前中は津田栄氏(元ドイチエアセツトマネジメント最高投資責任者、午後は影山俊佑氏(富士ゼロックス株式会社販売・パートナー営業事業部戦略G勤務)、鹿島洋介氏(前橋観光コン

ベンション協会勤務・前橋フィルムコミッション担当)、吉野晋志朗氏(キーンエンス株式会社勤務・千葉県復興支援団体F.U.N創立者)、河野文博氏(ガートナー日本法人勤務・アカウントエグゼクティブ)が順に各一時間

の講義を担当。豊富な経験、実績に基づく貴重な話を伺える機会とあって聴講者からは次々と質問の手が挙がり、熱気あふれる講義となった。

今春、三年生になる現代日本社会学科の笠井万由美さんは「人生の中で

自分が大切にしている価値を実現する手段として仕事をしたい」と津田さんの言葉が印象的でした。仕事は最終ゴールと考えていたので、「仕事は手段」と聞いて少し気持ちが楽になりました」と語り、同じく滝川綾菜さ

らは中国人従業員との懇談を通じて、中国における企業活動の現状と課題等について、現地の「生の声」を通して理解を深めた。

日本人駐在員からは、中国人従業員とのコミュニケーションや職務評価の難しさ、生活面の苦労話とともに、異文化を乗り越えての仕事の醍醐味や今後の成長可能性などを話していただいた。また、学生と同世代の現地従業員との懇談では、日系企業に勤めた動機や将来の夢、普段の生活風景など、学生ならではの質問もあり非常に有意義な時間を共有できた。同時に、中国人が持つ本物の日本への思いを感じることができた(日系企業であることを多少勘案しなければならぬが)。



稼働中の工場を見学

参加した国文学科の伊藤志恵さんは「現場の課題など生の声に触れたことで、新たに知ることが数多くあった。中国のみならずアジア全体の今後についても想像することができ、よい経験になった」「コミュニケーション学科の三好瑛子さんは「晴れた日は青空が見えマスクは要らなかった。広大な中国大陸を、メディアの報道通りに一括にして考えることはできない」と再認識した」「神道学科の永瀬文也君からは「中国に対する偏見や先入観が払拭された。人々は勤勉でモラルが高く衝撃を受けた。テレビやネットに頼らず、自分の目と耳で確かめることが大事だと思う」との感想が聞かれ、実際に現地に赴き見聞を広める意義を再確認した次第である。

参加学生たちが、今回の実習で身につけた国際感覚に磨きをかけ、卒業後に日本と世界との架け橋となる人材として活躍してくれることを期待してやまない。

皇高 NEWS

全国大会へ意気込み

女子柔道部・剣道部

三月二十一日に東京の日本武道館で開催された第三十七回全国高等学校柔道選手権大会・女子団体戦に本校の女子柔道部が初出場。同部は創部

チームワークで勝つ

女子柔道部主将 亀川 真代 (二年六組)

女子柔道部は創部三年目です。小学生の頃から同じ道場で共に稽古してきた仲なので、どのチームよりもチームワークはあると思います。普段の稽古では基礎的な部分を磨いたり、試合を想定した乱取りではどうしたら相手を投げることができるの



左から、亀川さん、山本蘭さん、久野美悠さん、五十子千紗さん

武道と競技との両立が課題

剣道部 和田 吉勝 (二年六組)

私たち剣道部は剣道を通じて人間形成を図り、社会に貢献できる人材になることを一番の目的として尾上先生、田中先生のご指導のもと、稽古に励んでいます。稽古中、最も意識するのが「基本を外れず、試合を想定した中でどれ

古都の魅力を満喫

京都フィールドワーク

総合学習の総仕上げとして全一年生三五名が参加する京都フィールドワークが二月十九日・二十日に実施された。生徒たちは平安神宮を起点にした六つのコースに分かれ、仁和寺や南禅寺、京都御所などの寺社や名所を見学。事前学習で作成した行程通りにいかないハプニングもあったようだが、それぞれ古都京都の



京都・平安神宮にて

● 総合学習の総仕上げとして全一年生三五名が参加する京都フィールドワークが二月十九日・二十日に実施された。生徒たちは平安神宮を起点にした六つのコースに分かれ、仁和寺や南禅寺、京都御所などの寺社や名所を見学。事前学習で作成した行程通りにいかないハプニングもあったようだが、それぞれ古都京都の魅力を満喫した。以下に生徒の感想を紹介する。
● 途中雨が降ってきたが渡月橋では虹が見られ、結果オーライだった。
● 移動に思ったより時間がかかり、集合時間に遅れてしまった。次からは余裕をもたせて行動していきたい。
● 人力車が走っていて、伊勢にはない光景だと思った。

「文武両道」(武士道の理想)

建国記念の日の講演

二月十日、皇學館高校・中学校の生徒を対象に建国記念の日の講演が行われた。講師を務めた菅野覚明皇學館大学教授は文武両道や武士道の本来の意味をわかりやすい言葉で解説。生徒



優勝トロフィーと賞状を手にする和田君

ません。この武道面と競技面との両立が、目標であるインターハイ出場へ向け、取り組むべき課題です。また、「発声の大きさはその人間の器の大きさ」との教えを受け、発声と共に自分自身を大きく育てるという目標も持っています。これらの課題に取り組み、全国大会では力を出し切りしたいと思います。

● 道に迷ったりと不安になることもあったが、班のメンバーや他のコースの人と協力して集合時間に遅れることなく無事に着けた。
● 龍安寺ではどの角度からでも十五個の石が同時に見えるという庭を実際に体験できて嬉しかった。
● 起床や準備など早めに行動したので時間を有効に使えるようになった。
● 移動中、班の子といっぱい話をしたので前よりも仲良くなった。

皇中 NEWS

仲間との絆深めたスキー研修

二月一日から三日にかけて、二年生四十三名が長野県・白樺湖ロイヤルヒルスキー場へ赴き、二泊三日の研修を行った。三日間とも素晴らしい天候に恵まれ、生徒たちはスキー実習はもちろん、室内レクリエーションなども存分に楽しむことができたようだ。参加者全員、体調不良もなく無事解散式に臨むことができた。実りある研修となった。

みんなの気持ちが一つに

二年A組 福島 怜奈

スキー研修を通して学年全体が「強さ」も「やさしさ」も、共に成長できたと思います。最初は全く滑ることができませんでしたが、インストラクターさんはもちろん、班のみんながくじけそうな私を助けてくれ強くしてくれました。みんなにはたくさん迷惑をかけてしまったと思いますが、最終日にはまるでみんな

目標を達成でき嬉しかった

二年B組 竹詰 陽菜乃

楽しみでもあり、不安でもあったスキー研修。というのも、私は班長だったので班のみんなを上手くまとめることができたかわからなかったか



すぐ滑れるようになり、余裕のピース!

気持ちがよく楽しかったです。初めてのスキーだったのですが、バス基礎をたたきこまれてつらく感じた時もあったけれど、みんなで班の目標を達成できたときは小躍りしたくなるほど嬉しかったです。でも、やっとスキーのコツをつかんだところで研修が終わったので、あと二日は欲しいと思いました。

大学合格の秘訣を語る

進路講演

毎年好評を博している皇學館高等学校(六年度)の先輩たちによる進路講演。三月十一日に行われた今回は、めでたく国公立大学への合格を決めた先輩たちの中から鈴木春風さん、小林瑞季さん、大畑幸愛さんの三名が訪れ講演を行った。

鈴木さんは何より早く高校生活に慣れ、中だるみを抜け出すこと、大学のオープンキャンパスに参加し情報を直に知ることが重要と語り、志望学部・学科を決めると学習意欲が湧き、周囲の仲間の支えも大きかったと語った。推薦入試で志望校合格



を勝ち取った小林さんは学習計画をきちんと立て、時間を有効に使うことを心がけたとアドバイス。習慣になると一日に三、四時間机に向かうのが平気になり、中高でクラスの室長を務めたことも人間的に成長する機会になったと学校生活を振り返った。大畑さんはどの方面に進んでもいいようにどの科目もまんべんなく勉強をし、わからないところは解説を何度も読み込んでその日のうちに解決したと語り、睡眠時間は削らずしっかり確保するほうが効率的だったと話した。講演後、生徒たちからは次々と質問が出て、刺激のある講演となった。

伊勢から世界へ、世界から伊勢へ

第二回「伊勢」と日本スタディプログラムを開催

西洋文化圏で日本学を専攻する大学院生等に神道やそれに関係する伊勢の歴史や文化、民俗について学んでもらう「伊勢」と日本スタディプログラムが二月二十三日〜三月十三日の間、本学を拠点にして実施された。

九カ国から十一名が参加

本プログラムは特に西洋諸国との間において、国際交流活動を拡大し、さらにキャンパスのグローバル化を図りたい本学と、西洋圏での「伊勢」の知名度向上および地域の活性化をめざす伊勢市が連携して、昨年度から始まった。本学はカリキュラムや施設を提供し、市が渡航や滞在にかかる費用を負担している。企画時の構想通り、神道や神社、伊勢の神宮を

参加者の情報発信ページにアクセス一万件超

カリキュラムは教室での各種座学の他、祭式行事作法等の体験型学習、神宮をはじめ、朝熊山・二見・河崎・古市街道・大湊・神社等を訪ねるフ

一名が参加した。また、昨年末には本プログラムへ参加者を派遣するルーヴェン・カトリック大学（ベルギー）日本研究所のウィリー・ヴァンドウワラ教授が本学を表彰訪問する等、日本についての研究組織・機関を有する海外の大学に本プログラムが浸透しつつある。



【3月9日】神社港でのフィールドスタディ

三月十三日に行われた閉講式では、現在留学する東京大学から本プログラムに参加したポーラ・カーティスさん(米国)が「日本の中近世史を研究しており、今回見学した河崎や旧御師・丸岡宗大夫邸では当時の経済状況を知る上で大きな収穫が

あった。皇學館大学ではもちろんのこと、市内各所で伊勢の市民から様々なもてなしを受けた。地域の歴史や民俗を後世に伝承しようとする人々の姿に感銘を受けた」と語った。また、本プログラム中にはのべ百五十名の本学学生サポーターが留学生等と交流し、主に課外での各種支援活動を行った。その一人、東海希美さん(教育学部一年)は「常に留学生の皆さんから刺激を受け続けた貴重な三週間であった。彼らから英語等の語学だけでなく、日本や伊勢のことについて教わる機会が多く、自国のことを知らなくては真のグローバル人材になれないことを学んだ」と感想を述べた。

教職員人事

平成27年3月31日付

大学

退職

文学部教授 池田 久代
文学部教授 上野 秀治
文学部教授 白山 芳太郎
文学部教授 安江 和宣
文学部准教授 三品 理絵
文学部准教授 前田 至剛
文学部准教授 市川 千秋
教育学部教授 田口 鉄久
教育学部教授 錦 かよ子
教育学部助手 加藤 伊子

新着

現代日本社会学部教授 建部 久美子
現代日本社会学部助教授 宮川 泰夫
現代日本社会学部助教授 上野 文枝
研究開発推進センター助教 千枝 大志

高校

退職

学生支援部教職アドバイザー(事務嘱託) 上森 敏和
研究開発推進センター助教 山口 剛史
平成26年12月30日付

新着

高等学校教諭 田中 克征
高等学校教諭 戸上 久和
高等学校教諭 西井 栄治
高等学校教諭 木場 信彦
平成26年9月30日付

平成二十六年 奨学金授与者

学生の修学意欲の向上及び優秀な人物の輩出を目的に、神社界をはじめ各界からのご厚意によりさまざまな奨学金制度が設けられている。平成二十六年度は四十六名一団体に授与された。

学内奨学金授与

給付奨学金(十万円)

国文学科三年 古味 夏実
教育学科三年 平野 幾也
現代日本社会学科三年 羽田 明莉

コミュニケーション学科三年

藤岡 史奈

岡田奨学金(十万円)

国史学科四年 菅野 慈子
国史学科三年 梅田 優歩

現代日本社会学科二年

岩城 あい

修士課程教育学専攻二年

若葉 京良

博士後期課程神道学専攻二年

新田佳恵子

館友会奨学金(十万円)

神道学科三年 川勝 吉晃
国文学科三年 中津 果歩

現代日本社会学科二年

岩城 あい

教育学科三年 笹ヶ瀬 睦

出口 雅恵

現代日本社会学科三年

出口 雅恵

慶光院俊奨学金(十万円)

神道学科三年 山田恰央奈
神道学科三年 大崎 歩

コミュニケーション学科三年

上野 優太

教育学科三年 笹ヶ瀬 睦

出口 雅恵

現代日本社会学科三年

出口 雅恵

安部奨学金(十万円)

神道学科三年 大崎 歩

専の会教育奨励賞

(図書カード三万円分)
神道学科四年 大谷 ことすえ
国文学科四年 奥村 詩織
国史学科四年 森 望美

コミュニケーション学科四年

松田 明子

教育学科四年 杉山 恵梨

長嶋沙都子

現代日本社会学科四年

柴原つばさ

神道学科三年 堀内 徹哉

藍 藍

国文学科三年 中森 藍

齋藤 佳祐

国史学科三年 齋藤 佳祐

中西 由美

学外奨学金授与

神宮特別奨学金(五十万円)

神道学科四年 奈良崎勝彦

神道学科三年 橋本 昌幸

井階 正浩

神道学科三年 日下 悠

日高 一希

神社本庁育英奨学金(三十万円)

神道学科三年 日高 一希

敬神婦人連合会奨学金(十五万円)

神道学科四年 渡邊 真悠

伏見稲荷大社奨学金(十二万円)

神道学科四年 馬岡 美紀

八坂神社奨学金(十万円)

博士前期課程神道学専攻二年 川上 典大

高松奨励賞(五万円)

野口 翔平

現代日本社会学科二年

雅楽 部

教員免許状更新講習のご案内

今年も2会場で開催します
問合せ先 学生支援部教職支援担当
TEL 05996-2226
FAX 05996-2210
Email kyojoku@kogakkan-u.ac.jp

受講対象の方は平成28年及び29年3月31日に修了確認期限を迎える現職教員等の方です。

受付期間	第一次	6月1日(月)16時～4日(木)15時まで(予定)
	第二次	6月8日(月)16時～10日(水)15時まで(予定)

受講対象者	平成28年・29年3月31日現在の年齢	生年月日
	満35・34歳	昭和55年4月2日～昭和57年4月1日
	満45・44歳	昭和45年4月2日～昭和47年4月1日
	満55・54歳	昭和35年4月2日～昭和37年4月1日

会場と開講スケジュール

必修領域12時間は全教員、選択領域18時間は養護教諭・栄養教諭を除く全教員の方が対象です。

伊勢会場	皇學館大学	四日市会場	じばさん三重
必修領域	8/17(月)	8/18(火)	8/19(水)
選択領域	8/19(水)	8/20(木)	8/21(金)
	8/20(木)	8/21(金)	8/22(土)

講習の内容・お申込み方法などの詳細は本学HPをご参照ください。
<http://www.kogakkan-u.ac.jp>

イベント情報 (4~6月)

4月	11 土	皇學館大学共催講座	近鉄文化サロン阿倍野
	『古事記』(上巻)を読む「天と地のはじめ・イザナギの命とイザナミの命」 白山芳太郎(文学部教授)		
	18 土	皇學館大学共催講座	近鉄文化サロン阿倍野
5月	1日・短期講習会 古文書を読むー大坂落城を伝える細川忠興の書状ー 岡野友彦(文学部教授)		
	25 土	皇學館大学共催講座	近鉄文化サロン阿倍野
	神道と仏教ー神社仏閣に見る神仏習合と神仏分離ー「室生寺における神仏習合と神仏分離」 河野 訓(文学部教授)		
6月	9 土	月例文化講座	431教室
	万葉集、旅の歌 大島信生(文学部教授)		
	9 土	皇學館大学共催講座	近鉄文化サロン阿倍野
6月	『古事記』(上巻)を読む「列島誕生・神生み」 白山芳太郎(文学部教授)		
	16 土	皇學館大学共催講座	近鉄文化サロン阿倍野
	1日・短期講習会 記紀・風土記の「大きな神」「小さな神」 櫻井治男(文学部教授)		
6月	23 土	皇學館大学共催講座	近鉄文化サロン阿倍野
	神道と仏教ー神社仏閣に見る神仏習合と神仏分離ー「大和・長谷寺における神仏習合と神仏分離」 河野 訓(文学部教授)		
	23 土	佐川記念神道博物館 教養講座	佐川記念神道博物館講義室
6月	学芸員が語る三重の文化と魅力II「里山の成立と人の暮らし」 布谷知夫(三重県総合博物館館長)		
	6 土	研究開発推進センター史料編纂所古文書講座	佐川記念神道博物館会議室
	古代文書を読む 遠藤慶太(研究開発推進センター准教授)		
6月	13 土	月例文化講座	431教室
	『源氏物語』光源氏の恋愛の世界を旅する 中川照将(文学部准教授)		
	13 土	皇學館大学共催講座	近鉄文化サロン阿倍野
6月	『古事記』(上巻)を読む「イザナミの命の死・黄泉国訪問」 白山芳太郎(文学部教授)		
	20 土	皇學館大学共催講座	近鉄文化サロン阿倍野
	1日・短期講習会 老子伝を読む 松下道信(文学部准教授)		
6月	27 土	佐川記念神道博物館 教養講座	佐川記念神道博物館講義室
	学芸員が語る三重の文化と魅力II「川喜田半泥子と石水博物館ー半泥子が三重にのこしたものー」 龍泉寺由佳(石水博物館学芸員)		
	27 土	皇學館大学共催講座	近鉄文化サロン阿倍野
6月	神道と仏教ー神社仏閣に見る神仏習合と神仏分離ー「信貴山における神仏習合と神仏分離」 河野 訓(文学部教授)		

- 各講座の詳細につきましては、本学ホームページにてご確認くださいませようお願いします。
- 佐川記念神道博物館教養講座は、事前の申込みが必要になります【先着順】。お問い合わせは(☎0596-22-6471)へお願い致します。
- 研究開発推進センター史料編纂所公開講座・古文書講座は、事前の申込みが必要になります【先着順】。お問い合わせは(☎0596-22-6462)へお願い致します。
- 共催講座(近鉄文化サロン阿倍野)のみ、**有料**です。お問い合わせは近鉄文化サロン阿倍野(☎0120-106-718)へお願い致します。
- その他お問い合わせは、皇學館大学地域連携推進室(☎0596-22-8635)へお願い致します。

編集後記

学生時代を振り返り、卒業生から「入学当初の断片的知識が、卒業論で一つにまとまり感動した」「知識の詰め込みや単位取得だけの勉強ではもったいない。講義で気になったことを自ら調べ、納得して初めて自分の糧になる」などの声が聞かれました。本学では従来の講義型の授業とは一線を画すアクティブラーニングを積極的に導入し、学生が主体的に考え、創造性をもって活動できる環境を整えています。こうした実践的な学びを通じて社会有為の人材を育てて参ります。卒業生の皆さんご卒業おめでとうございます。今後の活躍を心よりお祈り申し上げます。(企画部)

音の楽しさ伝えたミュージカル

教育学部卒業記念「シンドバッドの大冒険～こころのコンパスを信じて～」



“最高の仲間と最高の感動を”を合言葉に、みんなで一から創り上げたミュージカル。その一体感、高揚感が会場を包みこんだ



実行委員長の山田君

同ミュージカルには教育学部の学生有志約百名が参加した。恩師である錦かよ子先生が今年で定年退職されるので、お世

身をもって感じた「信頼の大切さ」

「空気砲」を登場させるなど凝った演出に会場は大興奮。さらに、演歌

まざまな冒険を繰り広げる中で思いやりや信頼の大切さを学び、一まわり成長して王宮に帰ってくる物語だ。友だちと助け合いながら困難に立ち向かう主人公たちの姿を通して、仲間の大切さを子どもにもわかりやすく伝えるストーリー展開もさることながら、でんじろう先生の実験でおなじみの「空気砲」を登場させるなど凝った演出に会場は大興奮。さらに、演歌

教育学部有志による卒業記念ミュージカルが二月二十一・二十二日に本学記念講堂で、同月二十八日に津市の三重県総合文化センター大ホールにて開催された。演目は「シンドバッドの大冒険～こころのコンパスを信じて～」。三公演あわせ約二千八百名の観客は、キャストをはじめ裏方として舞台を支えたスタッフ全員に惜しみない拍手を送った。

多彩な音楽と凝った演出で観客を魅了

今年で二十九回目となった卒業記念ミュージカルの演目は「シンドバッドの大冒険～こころのコンパスを信じて～」。友だち探しの旅に出たエミール王子が途中、出会ったシンドバッドとともにさ



開場45分前にもかかわらず、すでに長蛇の列が

学生たちの熱演に感動

公演最終日の二月二十八日、津の三重県総合文化センター大ホール一階は満席となり、急ぎよ二階席を開放。会場は約千

八日、津の三重県総合文化センター大ホール一階は満席となり、急ぎよ二階席を開放。会場は約千名もの観客で埋め尽くされた。伊勢公演と同様、来場者は学生たちの熱気あふれる舞台に圧倒された様子で、公演終了後もすぐに席を立つことなくスタッフの紹介や山田君の最後の挨拶にじっくりと耳を傾けていた。

「今年は三人の娘と友人家族とで来ました」とは鈴鹿市在住の女性。四年前に津開催が始まって以来、毎年観に来ているという。「天城越えが流れた時は小学二年の娘が口ずさんでいました。個



主人公のシンドバッドとともにハイチーズ!

津市内からやって来たという親子は「二歳半の

を重ねた。その過程で、仲間を信頼することの大切さを身をもって感じたという。「細かい指示を出さなかったのは、みんなの根底に、子どもが大好き」という思いがあることをわかっていったから。いろんな意見やアイデア

もすべては子どもたちに喜んでもらうため。準備にかけたこの一年間、いろいろ悩んだり迷ったりもしたけれど、みんなを信じ、自分たちのやってきたことを信じてきて本当によかったと思います。」

「す」と嬉しそうに話した。会場外の広場ではキャストたちと一緒に記念撮影をしたり、労いの言葉をかける観客の姿も。学生たちも舞台が無事成功をおさめたことに感無量の様子で、笑顔と泣き顔が入り混じるにぎやかなお見送りとなった。



「オリジナリティーあふれる舞台が作れたね」との錦先生の言葉に、涙を流す学生たち

平成27年度 皇學館大学 月例文化講座

各日とも 時間●午後2時より 場所●4号館 431教室

聴講料無料

年間テーマ 文学を旅する

担当●国文学科

第1回 通算374回 5月9日(土) 万葉集、旅の歌

教授 大島 信 生

現代を生きる我々は、観光や仕事関係の出張など様々な目的で旅をします。では、万葉人の旅とはどのようなものだったのでしょうか。現代と違って様々な困難が伴ったことは想像に難くありません。現存する我が国最古の歌集である万葉集には多くの旅の歌が残されています。本講座ではそれらの歌を通して万葉人の心情に迫ってみたいと思います。

第2回 通算375回 6月13日(土) 『源氏物語』 光源氏の恋愛の世界を旅する

准教授 中 川 照 将

『源氏物語』は、古典文学の中でも最も有名な作品ですが、頻繁にその名を聞いた目に触れる機会があるわけには、本作品がどのような物語であるか、全体の内容については意外と知られていないのではないのでしょうか。本講座では、光源氏の恋愛に焦点を当て、さまざまな女性たちとの恋の様相とその意味について、解説していきます。

第3回 通算376回 7月4日(土) 平家物語を「馬」から読む

教授 深 津 睦 夫

源平合戦の時代、馬は最も重要な武器の一つでした。武者は戦場において自らの命を託すことになる馬を大切に、また、優れた馬を求めました。「木の下」「生食」「磨墨」「井上黒」など名馬をめぐるエピソードを読み解くことによって、平家物語の面白さと、物語に登場する武将たちの魅力を探っていきます。

第4回 通算377回 9月5日(土) 旅人の文学ー熊野街道を行くー

教授 高 倉 一 紀

江戸時代の紀行文「浜木綿日記」をしるべに、古の熊野路を巡ります。「峻険」「奇絶」そして「絶景」、当時の旅人の目にこの街道筋の風物はどうか映ったのでしょうか。本年初めて活字化された新資料を読み解き、江戸時代の旅に想いを馳せるひと時を演出します。併せて、個性豊かな作者の人となりや近世紀行文の楽しみ方もご紹介できればと思います。

第5回 通算378回 10月10日(土) 文学を旅するには?

准教授 岡 野 裕 行

「文学を旅する」とはどういうことでしょうか。旅するためには事前にその準備が必要です。①どこへ、②何を、③誰と、④どうやって見に行くのか、そして、情

報を⑤どこで入手し、⑥どこに残し、⑦誰に伝えるのかなど、さまざまな点について考える必要があります。特に近現代文学を対象としながら、「文学を旅する」ための方法について考えたいと思います。

第6回 通算379回 11月21日(土) 丘処機『西遊記』を読むーチンギス・ハーンと会った道士ー

准教授 松 下 道 信

ユーラシアほぼ全域を手中に収めたモンゴル帝国。その登場前後、戦乱の中、中国からアフガニスタンまでチンギス・ハーンに会いに行った道士がいました。これにより彼はかつてない道教の繁栄をもたらします。本講座ではその記録である『西遊記』をもとに、丘処機とチンギス・ハーンに会うまでの旅、そして彼を取り巻く時代について紹介します。

第7回 通算380回 12月12日(土) 跋文にみる蘇軾

准教授 上 小 倉 一 志

中国北宋時代を代表する詩人であり、書の四大家の一人としても後世に大きな影響を与えた蘇軾が、書や文房四宝に関してどのような考えを持っていたかを題跋の文章を見ながら考えて行きます。題跋とは、書画作品等の巻末に鑑賞者がその作品と接するに至った経緯や感想を記したものであり、事物に対する様々な考え方を見ることが出来ます。

娘が舞台が終わる頃には一人で手拍子ができるようになっていて驚きました。娘にとって今回が初めてのミュージカル。最後まで集中して観ていて、本当に楽しかったで

カルで得た仲間との絆、感動、達成感は今後の人生において大きな意味を持つに違いない。

K-らいふ

Activity Report of 2014

平成26年度 活動報告

全学
一体

1-2 ● 退任によせて

2 ● 平成26年度出版物、三重県私学大会表彰

- 3 ● 附置研トピックス ● 神道研究所 ● 佐川記念神道博物館
● 史料編纂所 ● 館史編纂委員会

4 ● 皇學館の来歴

1-4 ● デキゴトロジー

現代日本学の道を拓いて

現代日本社会学部教授(学部長) 宮川 泰夫



次元を超えた二つの道の交点で、私は、国旗、校旗を仰ぎ、七年目を迎えた。ここで、倭姫宮から、御幸通、御師の黒門を経て、神宮文庫、神道博物館に至る神の道と、徴古館に對した正門から記念館を経て、流の戦没学生鎮魂碑に至る人の道が一つになる。記念館は、戦後七十周年を迎え、固い絆の石彫作家の流、「日月庵」揮毫の千宗室、上杉理事長の魂、官立と私立の絆をな

出会いに感謝



昭和五十二年に奉職し、三十八年が経ちました。神道学科の誕生した年から今日まで、最初の三年は助手でしたが、一期生が四年の時に卒論指導教員となり、以後、門下生がかなりの数になります。神社界その他各界でお役に立っているのを嬉しく思っています。昨年末、神道学科の先生方が開いてくれた退任記念講演には、それら門下生や現役の皆さん多数が駆けつけて下さり、大変な感謝のひとつを過ごしました。逆に、つらかったのが二つの震災でした。阪神淡路では、交通が遮断される中、渡船と徒歩で、神戸の神社にお見舞いに行きました。東日

退任によせて

文学部教授 白山 芳太郎

本の震災では、教え子たちが被災していることを知って、訪ねて行き、また、被害にあった教え子を講演に招いて実情を話してもらいました。支援している人と支援されている人とが次々に神道学科で結びついてくれました。東北大での集中講義その他、被災地に行く機会があると、残って各地を巡りました。福島原発二十キロの飯館、浪江、小高区、いまでも忘れられません。今も復興は遅々として進みませんが、本当の意味での復興を願っています。

こうして振り返りますと、三十八年の間に色んなことがありました。一つひとつ触れることはできませんが、そういう思い出を作ってくれた学生たちとの出会いに感謝します。先生たちにも大変お世話になりました。

ご恩に思いを馳せて

文学部教授 池田 久代



この十七年間、大学から頂いたさまざまなご恩に思いを馳せています。名張の社会福祉学部での十四年間は、専門は英語・英文学でしたが、なんとか福祉をめざす学生に寄り添おうと努めました。文学部での四年間は、平成二十三年(二〇一一)、東日本大震災の年に入学した学生の担任となり、文字通り文学部一

神縁

文学部教授 上野 秀治



皇學館大学に奉職して三十六年間、長きにわたり皆様方に大変お世話になり、厚く感謝申し上げます。次第である。

三十数年前私立大学の史学科を出て、歴史学専門の学科を置く大学に就職するのは極めて困難だといわれていたとき、皇學館大学に奉職することができた。

十年間の愛おしい日々

文学部准教授 三品 理絵



皇學館大学に赴任して十年目の二〇一四年度を最後に、思いがけずこの学舎を離れることになりました。この間、粗忽で未熟な私をあたたく支えて下さった皇學館の先生がた、職員の皆様には本当にお世話になりました。また、ここで出会った多

心優しい学風が受け継がれんことを

教育学部教授 錦 かよ子



私の教員生活の最後の五年間を皇學館大学で教鞭をとれたことは、非常に幸せでした。論文指導や研修旅行でのゼミ生との

平成26年度 デキゴトロジー 行事日誌

大 学

- 4月 入学式
- 3月 春学期通常講義開始
- 12月 共催講座「古事記」を読む(下巻「仁德天皇」)
- 10月 白山芳太郎(文学部教授)
- 10月 月例神宮参拝
- 9月 共催講座「1日・短期講習会」はじめて学ぶ道教・松下信道(文学部准教授)
- 8月 創立記念日
- 7月 共催講座「神道と仏教」伊勢神宮の遷宮・河野訓(文学部教授)
- 6月 月例文化講座「暮らしのなかの神々」櫻井治男(文学部教授)
- 5月 共催講座「古事記」を読む(下巻「仁德天皇」)
- 4月 白山芳太郎(文学部教授)
- 3月 月例神宮参拝
- 2月 共催講座「1日・短期講習会」神道と暦・暦の歴史と神社
- 1月 木村徳宏(文学部助教)
- 12月 月例神宮参拝
- 11月 専ら会役員会
- 10月 専ら会総会
- 9月 学友会・役員会、公開総務委員会
- 8月 神道博物館教養講座(宣長を編集する)
- 7月 吉田悦之(本居宣長記念館館長)
- 6月 共催講座「1日・短期講習会」日本書紀を読むー垂仁天皇紀ー
- 5月 大島信生(文学部教授)
- 4月 第8回攻めの社会人養成講座(無限の可能性ー思い方次第ー)
- 3月 安藤大作(株式会社社会人養成講座代表)
- 2月 共催講座「神道と仏教」立山における神仏習合と神仏分離
- 1月 河野訓(文学部教授)
- 12月 オープンキャンパス
- 11月 攻めの社会人養成講座スベシャル(月商6000円からの成功術)
- 10月 山下貴弘(株式会社日E代表取締役)
- 9月 研究開発推進センター・神道研究所公開講演会
- 8月 「荷田春満と「荷田派」の国学者」松本久史(國學院大學神道文化学部准教授)
- 7月 第30回現代日本塾(現代日本における自衛隊の役割)
- 6月 木戸口和彦(自衛隊三重地方協力本部長)
- 5月 古文書講座「中世文書を読むー伊勢山田八日市場をめぐる古文書IIー
- 4月 千枝大志(研究開発推進センター助教学員)
- 3月 月例文化講座「三山(富士山・白山・立山)の神様」
- 2月 河野訓(文学部教授)
- 1月 共催講座「古事記」を読む(下巻「履中天皇」)
- 12月 白山芳太郎(文学部教授)
- 11月 月例神宮参拝
- 10月 神道学科・神道学会共催講演会(この問題と宗教者の役割)曹洞宗教団の取り組みから宇野全智(曹洞宗総合研究センター専任研究員)
- 9月 共催講座「1日・短期講習会」古文書を読むー淀殿の自筆書状ー
- 8月 岡野友彦(文学部教授)
- 7月 神道博物館教養講座「進撃の桑名市博物館ー村正石取祭伊勢一の鳥居ー
- 6月 杉本竜(桑名市博物館学芸員)
- 5月 共催講座「神道と仏教」三井寺(園城寺)における神仏習合と神仏分離
- 4月 河野訓(文学部教授)
- 3月 避難訓練
- 2月 月例文化講座「神様に奉る御食事ー鈴鹿家所蔵「大嘗祭神饌図」ー
- 1月 加茂正典(文学部教授)
- 12月 共催講座「1日・短期講習会」文学に観る伊勢と熊野
- 11月 半田美永(文学部教授)
- 10月 人文学会大会
- 9月 共催講座「古事記」を読む(下巻「允恭天皇」)
- 8月 白山芳太郎(文学部教授)
- 7月 オープンキャンパス
- 6月 古文書講座「中世文書を読むー伊勢山田八日市場をめぐる古文書IIー
- 5月 千枝大志(研究開発推進センター助教学員)
- 4月 共催講座「1日・短期講習会」(宮崎アヌから神道を考えるーゆるやかにつながる神々)板井正幸(現代日本社会学部准教授)
- 3月 ながる神々
- 2月 第31回現代日本塾(現代日本における自衛隊の役割)
- 1月 そして生きること
- 12月 佐藤勝則(「ゼ」ホームをよびかき施設長)
- 11月 研究開発推進センター・神道研究所公開講演会「シンポジウム」
- 10月 「古代の祭祀と伊勢神宮」
- 9月 共催講座「神道と仏教」清水寺と地主神社
- 8月 河野訓(文学部教授)
- 7月 皇學館DAY(津)
- 6月 夏休み親子教室(伊勢型紙でLEDあかりを作ろう！)
- 5月 春学期通常講義終了
- 4月 共催講座「1日・短期講習会」(万葉の歌人ー高橋虫麻呂ー)
- 3月 大島信生(文学部教授)
- 2月 ふるさと講座「秘ストーリー名張ー歴史の道と川の流にー」
- 1月 櫻井治男(文学部教授)

平成26年度
新刊書籍のご案内

平成26年度に出版された新刊本のご紹介です。

講演叢書 各B6判・本体価格 477円＋税

第155輯 天心・岡倉覚三とアメリカ
—ポストモダンをみすえて—
本学教授 池田 久代著

第156輯 社会情報と人づくり
本学准教授 藤井 恭子著

第157輯 中国の茶文化について
本学教授 張 磊著

第158輯 現代日本社会学部が目指すもの
本学教授 新田 均著

第159輯 社会臨床とまちづくり
本学教授 筒井 琢磨著

第160輯 正直と浄明の心
本学教授 白山 芳太郎著

新刊書籍

神道学原論 A5判 215頁
白山 芳太郎著 本体価格 1,852円＋税

日本民族の基層信仰「神道」の神学究明と取り組んだ書。民族が築いた文化を総合的に把握し、その上で民族の基層信仰の理論体系のもととなるものに接近しようとしている。

日本礼法論 序説 A5判 158頁
岩崎 正彌著 本体価格 1,260円＋税

日本の礼法こそ、日本人を日本人たらしめてきた行動規範の精神的な源泉であった。今こそ正しい歴史観・国家観に基づいた日本の礼法の復興が必要と思われる(梗概より)。

社会調査の基礎と実践 A5判 122頁
関根 薫・藤井 恭子著 本体価格 1,102円＋税

社会調査を学ぶ人を対象に、調査の企画からデータ分析、報告書作成までの一連の基本的プロセスを具体的かつ分かり易く解説している。

神道の多面的価値—地域
神社と宗教研究・福祉文化—
新書判 306頁
櫻井 治男著 本体価格 996円＋税

長年、地域神社・祭礼行事の調査研究にたずさわってきた著者による、神道と福祉の接点を地域文化の観点から捉えた諸論を収載。神道のもつ多様な姿がやさしく説かれている。

ご注文の際は下記へ
お電話またはFAXにてご連絡ください。
皇學館大学出版部 TEL・FAX 0596-22-6320

五年間をかけてようやく信頼関係を築くことができ、私の思い描く素晴らしい舞台が創作できたように思います。そして私の接してきた学生は思いやりがあり、とても心優しい。これは個

人の資質ばかりではなく、先輩から受け継いで作られた皇學館大学の特質ではないでしょうか。この良き伝統を受け継いだ学生が社会で活躍することをお祈りしています。

創成期の息吹を感じながら

現代日本社会学部教授 建部 久美子



本学に赴任したのは、平成十年に社会福祉学部が創設された時です。創成期の学部の持つ意気高らかな学風を、学生たちも教職員たちも共有しています。

た。創設当時の名張キャンパスは、山を切り開いた後の草木がまだ育たない風景でした。私自身の学生時代も学部創設期であり、新学部を創り上げる意義を学生とともに強く感じています。その時代を経て伊勢キャンパスに移り、歴史ある本学の姿に日々ふれ、時空を超えて古きに近づき、そして未来を語る時

自分を信じて、人生に花を

高等学校教諭 田中 克征



この度、五年間勤めた皇學館高等学校を退職するにあたり、在校生にメッセージを送ります。それは、「自信」についてです。人間誰でも苦手なことはあります。しかし、できないって

誰が決めたか。なれないって誰が決めたか。自分の人生は自分で決めています。今は今しかありません。なりた自分になるために、楽なことばかりじゃないけれど、楽しいことはその向こう側にあるので、最後まで挑戦してほしいです。どんな夢も信じることから始まります。自分を信じて、明日を信

福祉を志す学生とともに

現代日本社会学部助教 上野 文枝



平成十九年四月に赴任してから八年間が過ぎました。名張学

を学生とともに過ごすことができました。

本学の学生は、歴史にはぐくまれ、伊勢の地に包まれ、学生を想う教職員とともに在り、素晴らしい学びの時を得ていると思います。

最後に、私を成長させてくれた皇學館高校、教員、そして生徒に感謝の意を表します。

すべてに感謝

高等学校教諭 戸上 久和



三十歳の時から三十五年間という長い期間、また、色々な事が

あり、もう退任の年になったのか？と着任が昨日か数日前のような感じもする、不思議な気持ちです。この間には寮が無くなり、一号校舎が建て替えられ、テニスコートや野球場が作られ、

第五十回 三重県私学大会表彰

平成二十六年十月十八日に三重県総合文化センターで開催された三重県私学大会において、私立学校教育振興のため、永年尽力された功績者、保護者及び優良生徒が表彰された。本学関係者は次の通りである。

- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| 満三十年 | 清水久美子氏(同会副会長) |
| 満二十年 | 廣 耕太郎氏
(皇學館高等学校保護者会会長) |
| 満一十年 | 五十子 智氏(同会副会長) |
| 優良生徒 | 志村日向(皇學館中学校三年) |
| 保護者 | 城 貴斗(皇學館高等学校三年) |
| 竹内久仁子氏
(皇學館中学校保護者会会長) | 大畑綾音(皇學館高等学校三年) |

キャンパスを訪ねることもあろうかと思しますので、その際に

はどうぞよろしくお願い致します。

武道館が建て替えられる……といった大きな事業がありました。修学旅行の行き先も九州であつたり、船で沖縄や屋久島を訪れたりもしたことがありました。ある時、授業が終わると、トコトコと生徒が教壇に近付いて来て、「私(僕)先生のことが知っていますよ!」「なぜ?」「体育大会の仮装で、先生が○○になっている写真を見たもん」と言わ

れ、あつ、そうそう、色んな仮装をしたこともあつたなと懐かしく想うこともありました。やはり三十五年間は長いようです。子供が生まれ、小学校、中学校と卒業し、今や私は、おじいちゃんになりましたから。何はともあれ、無事に退任の日を迎えることができ、すべてに感謝しています。本当に、ありがとうございます。

倉田山こそ人生のすべて

高等学校教諭 西井 栄治



四十三年間の教員生活のうち三十八年間は皇學館高校で過ごしました。高校・大学もこの倉田山、教職を志し、教壇を去るのもこの倉田山ですから、いわば倉田山こそ人生のすべてです。初代西山徳校長からすべての校長を存じている最後の世代

でしょう。時代は変転しても、皇學館の「建学の精神」を礎に生徒たちの人格形成をいかに図るか、「清明正直」を日常生活のあらゆる場面でいかに具現化し身につけさせていくかが教育の原点で、私学の特性もそこにあると考えて参りました。日本史の授業は、細かな知識より歴史好きを育てたいと願っていました。生徒の反応から間違いないかと自負しています。

11月6日	●第4回経営戦略セミナー(東海道新幹線五十周年とリニア中央新幹線) 推薦入試(後期)他
11月1日	●学内奨学金授与式
12月29日	●第4回親学教室(伊勢紙でLEDあかりを作ろう!)
12月27日	●みえアカデミックセミナー2014
12月25日	●失われつつある日本文化の地域性と多様性
12月23日	●共催講座(「古事記」を読む(下巻「安康天皇」) 白山芳太郎(文学部教授)
12月21日	●オープンキャンパス
12月19日	●教員免許状更新講習(24日)
12月17日	●館友会全国大会(高山)
12月15日	●共催講座(神道と仏教「善光寺における神仏習合と神仏分離」)
12月13日	●河野訓(文学部教授)
12月11日	●AO入試(神職・幼教)
12月9日	●AO入試(一般)
12月7日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
12月5日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
12月3日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
12月1日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
11月30日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
11月28日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
11月26日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
11月24日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
11月22日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
11月20日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
11月18日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
11月16日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
11月14日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
11月12日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
11月10日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
11月8日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
11月6日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
11月4日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
11月2日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
10月31日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
10月29日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
10月27日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
10月25日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
10月23日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
10月21日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
10月19日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
10月17日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
10月15日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
10月13日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
10月11日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
10月9日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
10月7日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
10月5日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
10月3日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
10月1日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
9月30日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
9月28日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
9月26日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
9月24日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
9月22日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
9月20日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
9月18日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
9月16日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
9月14日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
9月12日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
9月10日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
9月8日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
9月6日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
9月4日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
9月2日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
8月31日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
8月29日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
8月27日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
8月25日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
8月23日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
8月21日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
8月19日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
8月17日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
8月15日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
8月13日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
8月11日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
8月9日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
8月7日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
8月5日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
8月3日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
8月1日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
7月30日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
7月28日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
7月26日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
7月24日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
7月22日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
7月20日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
7月18日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
7月16日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
7月14日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
7月12日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
7月10日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
7月8日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
7月6日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
7月4日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
7月2日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
6月30日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
6月28日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
6月26日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
6月24日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
6月22日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
6月20日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
6月18日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
6月16日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
6月14日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
6月12日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
6月10日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
6月8日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
6月6日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
6月4日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
6月2日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
5月31日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
5月29日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
5月27日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
5月25日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
5月23日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
5月21日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
5月19日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
5月17日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
5月15日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
5月13日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
5月11日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
5月9日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
5月7日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
5月5日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
5月3日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
5月1日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
4月30日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
4月28日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
4月26日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
4月24日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
4月22日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
4月20日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
4月18日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
4月16日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
4月14日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
4月12日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
4月10日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
4月8日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
4月6日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
4月4日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
4月2日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
3月31日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
3月29日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
3月27日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
3月25日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
3月23日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
3月21日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
3月19日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
3月17日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
3月15日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
3月13日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
3月11日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
3月9日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
3月7日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
3月5日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
3月3日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)
3月1日	●第9回文化講座(日本昔話と神信仰) 菅野寛明(文学部教授)

附置研トピックス

平成二十五年四月に発足して以来、地域の知の拠点としての役割にさらなる期待がかかる「研究開発推進センター」。平成二十六年年度の活動を報告します。

神道研究所

「国学」とは何か——公開学術講演会を開催

松本久史國學院大學准教授による公開学術講演会「荷田春満と『荷田派』の国学者」が、平成二十六年（二〇一四）六月十二日、本学四号館四三二教室で開催され、九十六人が参加した。松本氏は、「創学校啓」の再検

祭記を通して神宮の実像に迫る——公開学術シンポジウム開催

公開学術シンポジウム「古代の祭祀と伊勢神宮」が、平成二十

佐川記念神道博物館

学芸員が語る三重の文化と魅力——教養講座

平成二十六年度は、学芸員が語る三重の文化と魅力」のテーマのもと、左記の四回を実施した。

【第一回】五月二十四日

五十九名受講

「宣長」を編集する

講師 吉田悦之先生

本居宣長記念館館長

【第二回】六月二十八日

三十七名受講

「進撃の桑名市博物館」村正・石取祭・伊勢一の鳥居」

講師 杉本 竜先生

桑名市博物館学芸員

【第三回】十月二十五日

四十二名受講

「式年遷宮を伝える——せんぐう

館の試み」

講師 深田 一郎先生

せんぐう館学芸員

【第四回】十一月二十九日

三十八名受講

「現代に生きる海女文化」

講師 石原義剛先生

海の博物館館長

「夏休み親子教室」に
一六二名が参加

佐川記念神道博物館では神宮
徴古館・農業館と共催で体験学

史料編纂所

『続日本紀史料』全巻完結を記念し

奈良時代をテーマに講義——公開講座を実施

喜氏（佛教大学教授）「大神宮助
けさせたまへー平安時代のアマ
テラスの変貌」・コメントータ

その内容は、『皇學館大学研究
開発推進センター紀要』第二号
に収録予定。

昨年度から内容を刷新した史料
編纂所公開講座。今年度は『続
日本紀史料』全巻完結を記念し、
続日本紀と同書が扱う奈良時代
をテーマに講義を行った（九月
二十一日開催。ゲスト講師には

習「伊勢型紙でLEDあかりを
作ろう」を平成二十六年七月
二十七日、八月七日の二回、当
館一階講義室を会場に開催。二
日間合計一六二名の親子が参加
し、あかり作りを楽しんだ。

伊勢出身で岐阜大学教育学部教
授の早川万年先生をお招きし、
伊勢・志摩地方の古代史料につ
いて興味深いお話を伺った。ま
た、長らく同書の編纂に携わっ
てきた研究開発推進センターの
荊木美行副センター長が、同書
の完成に至るまでのエピソード
を紹介するとともに、同書が今
後の研究にどのように活用され
ていくべきかを語った。

館史編纂委員会

『皇學館大学百三十年史』全五冊が完結

平成二十六年十二月、『皇學館
大学百三十年史 年表篇・写真
篇』を刊行し、これをもって、
皇學館大学創立百三十年・再
興五十周年記念事業としての館
史編纂事業が終了した。

総説篇	一〇八四頁
資料篇一	一一九二頁
資料篇二	一三四八頁
資料篇三	一五九四頁
年表篇・写真篇	八七六頁

以上、全五冊（いずれもA5
判・布装・函入、総頁数六〇九四
頁を数える。
当初の計画ではこの他に、再
興後五十年を、大学の各学部学

なお、地元の一般市民に根強
い人気の古文書講座も今年度は
四回開催することができた。中
世文書の部では佐川記念神道博
物館学芸員の千枝大志助教が、
昨年につづき、史料編纂所所蔵
の大家文書を取り上げながら、
御師と伊勢の関係について
講演した。

また、近世文書の部では上野
秀治文学部教授が江戸時代の大
名にかかわる文書を取り上げ、
大名制度を専門とされる自身の
研究の一端を披露した。

どちらの講演も、一通の文書
を丁寧に解説しつつ、文書から
読み取れることをわかりやすく
解説してくださると一般の受講
生にも好評を博した。両先生に
は時間の関係で年二回の講義を
お願いしているが、熱心な聴講
者からは「毎月開催してほしい」
との要望も寄せられている。

高 校

中 学

13日	●月例文化講座（宮中のまつり・伊勢神宮のまつり）松本丘（文学部教授）
14日	●共催講座（古事記）を読む（下巻）「仁賢」宣化天皇」
17日	●皇學館大学・三重大学合同シンポジウム「聖地熊野—その祈り—」
20日	●月例神宮参拝
22日	●共催講座「1日・短期講習会（神道の作法と有職—笏の話—）」
27日	●共催講座（神道と仏教「大鳥神社における神仏習合と神仏分離」
29日	●河野訓（文学部教授）
1月	●一般前期入試 31日
2月	●秋学期通常講義再開
7日	●学長年頭講話・学内成人式
8日	●共催講座（古事記）を読む（下巻）「欽明天皇」白山芳太郎（文学部教授）
10日	●月例神宮参拝
13日	●伊勢学・鈴木健一（伊勢市長）講演
15日	●大学入試センター試験 18日
17日	●史学会講演会（伊勢の大神宮と東大寺大仏造立）岡田登（文学部教授）
23日	●共催講座（神道と仏教「上野・寛永寺における神仏習合と神仏分離」
24日	●河野訓（文学部教授）
29日	●一般前期入試 31日
2月	●秋学期通常講義終了
5日	●第10回立志塾（これからの日本—少子高齢多死社会をどう生きるか—）
7日	●田尾憲男（本学特別招聘教授）
11日	●共催講座（神道と仏教「戸隠における神仏習合と神仏分離」
14日	●河野訓（文学部教授）
21日	●専攻科入試
22日	●共催講座「1日・短期講習会（日本書紀を読む—景行天皇紀—）」
23日	●大島信生（文学部教授）
27日	●ふるさと講座（名張の言語調査）齋藤平（文学部教授）
28日	●4教卒業記念ミラージュ（シンボル大冒険！—こころのコンパスを信じて—）伊勢公演 22日
29日	●共催講座（古事記）を読む（下巻）「敏達天皇」白山芳太郎（文学部教授）
3月	●マレーシア短期語学研修 3月21日
7日	●共催講座「1日・短期講習会（神道—とはじめ）
10日	●岡田芳幸（研究開発推進センター教授・学芸員）
14日	●一般後期入試
18日	●共催講座（古事記）を読む（下巻）「用明—推古天皇」
21日	●白山芳太郎（文学部教授）
28日	●学芸員「修了証書授与式（卒業式）」
31日	●攻めの社会人養成講座・特別集中講座（最高の就職のためにいま何をすべきか）津田栄（経済・金融・キャリア・危機管理・経営・人事・山田俊彦）
4月	●共催講座（神道と仏教「当麻寺における神仏習合と神仏分離」
8日	●河野訓（文学部教授）
10日	●新入生入学式
14日	●学内企業説明会
18日	●共催講座「1日・短期講習会（原文で読む『日本書紀』神代巻）
21日	●松本丘（文学部教授）
28日	●一般後期入試
31日	●白山芳太郎（文学部教授）
4月	●学芸員「修了証書授与式（卒業式）」
7日	●攻めの社会人養成講座・特別集中講座（最高の就職のためにいま何をすべきか）津田栄（経済・金融・キャリア・危機管理・経営・人事・山田俊彦）
8日	●共催講座（神道と仏教「当麻寺における神仏習合と神仏分離」
9日	●河野訓（文学部教授）
10日	●新入生入学式
11日	●学内企業説明会
13日	●共催講座「1日・短期講習会（原文で読む『日本書紀』神代巻）
14日	●松本丘（文学部教授）
15日	●一般後期入試
17日	●白山芳太郎（文学部教授）
22日	●学芸員「修了証書授与式（卒業式）」
23日	●攻めの社会人養成講座・特別集中講座（最高の就職のためにいま何をすべきか）津田栄（経済・金融・キャリア・危機管理・経営・人事・山田俊彦）
29日	●共催講座（神道と仏教「当麻寺における神仏習合と神仏分離」
30日	●河野訓（文学部教授）
5月	●一般前期入試 31日
10日	●秋学期通常講義再開
14日	●学長年頭講話・学内成人式
17日	●伊勢学・鈴木健一（伊勢市長）講演
22日	●大学入試センター試験 18日
23日	●史学会講演会（伊勢の大神宮と東大寺大仏造立）岡田登（文学部教授）
29日	●共催講座（神道と仏教「上野・寛永寺における神仏習合と神仏分離」
30日	●河野訓（文学部教授）
5月	●一般前期入試 31日
10日	●秋学期通常講義終了
14日	●第10回立志塾（これからの日本—少子高齢多死社会をどう生きるか—）
17日	●田尾憲男（本学特別招聘教授）
22日	●共催講座（神道と仏教「戸隠における神仏習合と神仏分離」
23日	●大島信生（文学部教授）
27日	●ふるさと講座（名張の言語調査）齋藤平（文学部教授）
28日	●4教卒業記念ミラージュ（シンボル大冒険！—こころのコンパスを信じて—）伊勢公演 22日
29日	●共催講座（古事記）を読む（下巻）「敏達天皇」白山芳太郎（文学部教授）
3月	●マレーシア短期語学研修 3月21日
7日	●共催講座「1日・短期講習会（神道—とはじめ）
10日	●岡田芳幸（研究開発推進センター教授・学芸員）
14日	●一般後期入試
18日	●共催講座（古事記）を読む（下巻）「用明—推古天皇」
21日	●白山芳太郎（文学部教授）
28日	●学芸員「修了証書授与式（卒業式）」
31日	●攻めの社会人養成講座・特別集中講座（最高の就職のためにいま何をすべきか）津田栄（経済・金融・キャリア・危機管理・経営・人事・山田俊彦）
4月	●共催講座（神道と仏教「当麻寺における神仏習合と神仏分離」
8日	●河野訓（文学部教授）
10日	●新入生入学式
14日	●学内企業説明会
18日	●共催講座「1日・短期講習会（原文で読む『日本書紀』神代巻）
21日	●松本丘（文学部教授）
28日	●一般後期入試
31日	●白山芳太郎（文学部教授）
4月	●学芸員「修了証書授与式（卒業式）」
7日	●攻めの社会人養成講座・特別集中講座（最高の就職のためにいま何をすべきか）津田栄（経済・金融・キャリア・危機管理・経営・人事・山田俊彦）
8日	●共催講座（神道と仏教「当麻寺における神仏習合と神仏分離」
9日	●河野訓（文学部教授）
10日	●新入生入学式
11日	●学内企業説明会
13日	●共催講座「1日・短期講習会（原文で読む『日本書紀』神代巻）
14日	●松本丘（文学部教授）
15日	●一般後期入試
17日	●白山芳太郎（文学部教授）
22日	●学芸員「修了証書授与式（卒業式）」
23日	●攻めの社会人養成講座・特別集中講座（最高の就職のためにいま何をすべきか）津田栄（経済・金融・キャリア・危機管理・経営・人事・山田俊彦）
29日	●共催講座（神道と仏教「当麻寺における神仏習合と神仏分離」
30日	●河野訓（文学部教授）
5月	●一般前期入試 31日
10日	●秋学期通常講義再開
14日	●学長年頭講話・学内成人式
17日	●伊勢学・鈴木健一（伊勢市長）講演
22日	●大学入試センター試験 18日
23日	●史学会講演会（伊勢の大神宮と東大寺大仏造立）岡田登（文学部教授）
29日	●共催講座（神道と仏教「上野・寛永寺における神仏習合と神仏分離」
30日	●河野訓（文学部教授）
5月	●一般前期入試 31日
10日	●秋学期通常講義終了
14日	●第10回立志塾（これからの日本—少子高齢多死社会をどう生きるか—）
17日	●田尾憲男（本学特別招聘教授）
22日	●共催講座（神道と仏教「戸隠における神仏習合と神仏分離」
23日	●大島信生（文学部教授）
27日	●ふるさと講座（名張の言語調査）齋藤平（文学部教授）
28日	●4教卒業記念ミラージュ（シンボル大冒険！—こころのコンパスを信じて—）伊勢公演 22日
29日	●共催講座（古事記）を読む（下巻）「敏達天皇」白山芳太郎（文学部教授）
3月	●マレーシア短期語学研修 3月21日
7日	●共催講座「1日・短期講習会（神道—とはじめ）
10日	●岡田芳幸（研究開発推進センター教授・学芸員）
14日	●一般後期入試
18日	●共催講座（古事記）を読む（下巻）「用明—推古天皇」
21日	●白山芳太郎（文学部教授）
28日	●学芸員「修了証書授与式（卒業式）」
31日	●攻めの社会人養成講座・特別集中講座（最高の就職のためにいま何をすべきか）津田栄（経済・金融・キャリア・危機管理・経営・人事・山田俊彦）
4月	●共催講座（神道と仏教「当麻寺における神仏習合と神仏分離」
8日	●河野訓（文学部教授）
10日	●新入生入学式
14日	●学内企業説明会
18日	●共催講座「1日・短期講習会（原文で読む『日本書紀』神代巻）
21日	●松本丘（文学部教授）
28日	●一般後期入試
31日	●白山芳太郎（文学部教授）
4月	●学芸員「修了証書授与式（卒業式）」
7日	●攻めの社会人養成講座・特別集中講座（最高の就職のためにいま何をすべきか）津田栄（経済・金融・キャリア・危機管理・経営・人事・山田俊彦）
8日	●共催講座（神道と仏教「当麻寺における神仏習合と神仏分離」
9日	●河野訓（文学部教授）
10日	●新入生入学式
11日	●学内企業説明会
13日	●共催講座「1日・短期講習会（原文で読む『日本書紀』神代巻）
14日	●松本丘（文学部教授）
15日	●一般後期入試
17日	●白山芳太郎（文学部教授）
22日	●学芸員「修了証書授与式（卒業式）」
23日	●攻めの社会人養成講座・特別集中講座（最高の就職のためにいま何をすべきか）津田栄（経済・金融・キャリア・危機管理・経営・人事・山田俊彦）
29日	●共催講座（神道と仏教「当麻寺における神仏習合と神仏分離」
30日	●河野訓（文学部教授）
5月	●一般前期入試 31日
10日	●秋学期通常講義再開
14日	●学長年頭講話・学内成人式
17日	●伊勢学・鈴木健一（伊勢市長）講演
22日	●大学入試センター試験 18日
23日	●史学会講演会（伊勢の大神宮と東大寺大仏造立）岡田登（文学部教授）
29日	●共催講座（神道と仏教「上野・寛永寺における神仏習合と神仏分離」
30日	●河野訓（文学部教授）
5月	●一般前期入試 31日
10日	●秋学期通常講義終了
14日	●第10回立志塾（これからの日本—少子高齢多死社会をどう生きるか—）
17日	●田尾憲男（本学特別招聘教授）
22日	●共催講座（神道と仏教「戸隠における神仏習合と神仏分離」
23日	●大島信生（文学部教授）
27日	●ふるさと講座（名張の言語調査）齋藤平（文学部教授）
28日	●4教卒業記念ミラージュ（シンボル大冒険！—こころのコンパスを信じて—）伊勢公演 22日
29日	●共催講座（古事記）を読む（下巻）「敏達天皇」白山芳太郎（文学部教授）
3月	●マレーシア短期語学研修 3月21日
7日	●共催講座「1日・短期講習会（神道—とはじめ）
10日	●岡田芳幸（研究開発推進センター教授・学芸員）
14日	●一般後期入試
18日	●共催講座（古事記）を読む（下巻）「用明—推古天皇」
21日	●白山芳太郎（文学部教授）
28日	●学芸員「修了証書授与式（卒業式）」
31日	●攻めの社会人養成講座・特別集中講座（最高の就職のためにいま何をすべきか）津田栄（経済・金融・キャリア・危機管理・経営・人事・山田俊彦）
4月	●共催講座（神道と仏教「当麻寺における神仏習合と神仏分離」
8日	●河野訓（文学部教授）
10日	●新入生入学式
14日	●学内企業説明会
18日	●共催講座「1日・短期講習会（原文で読む『日本書紀』神代巻）
21日	●松本丘（文学部教授）
28日	●一般後期入試
31日	●白山芳太郎（文学部教授）
4月	●学芸員「修了証書授与式（卒業式）」
7日	●攻めの社会人養成講座・特別集中講座（最高の就職のためにいま何をすべきか）津田栄（経済・金融・キャリア・危機管理・経営・人事・山田俊彦）
8日	●共催講座（神道と仏教「当麻寺における神仏習合と神仏分離」
9日	●河野訓（文学部教授）
10日	●新入生入学式
11日	●学内企業説明会
13日	●共催講座「1日・短期講習会（原文で読む『日本書紀』神代巻）
14日	●松本丘（文学部教授）
15日	●一般後期入試
17日	●白山芳太郎（文学部教授）
22日	●学芸員「修了証書授与式（卒業式）」
23日	●攻めの社会人養成講座・特別集中講座（最高の就職のためにいま何をすべきか）津田栄（経済・金融・キャリア・危機管理・経営・人事・山田俊彦）
29日	●共催講座（神道と仏教「当麻寺における神仏習合と神仏分離」
30日	●河野訓（文学部教授）
5月	●一般前期入試 31日
10日	●秋学期通常講義再開
14日	●学長年頭講話・学内成人式
17日	●伊勢学・鈴木健一（伊勢市長）講演
22日	●大学入試センター試験 18日
23日	●史学会講演会（伊勢の大神宮と東大寺大仏造立）岡田登（文学部教授）
29日	●共催講座（神道と仏教「上野・寛永寺における神仏習合と神仏分離」
30日	●河野訓（文学部教授）
5月	●一般前期入試 31日
10日	●秋学期通常講義終了
14日	●第10回立志塾（これからの日本—少子高齢多死社会をどう生きるか—）
17日	●田尾憲男（本学特別招聘教授）
22日	●共催講座（神道と仏教「戸隠における神仏習合と神仏分離」
23日	●大島信生（文学部教授）
27日	●ふるさと講座（名張の言語調査）齋藤平（文学部教授）
28日	●4教卒業記念ミラージュ（シンボル大冒険！—こころのコンパスを信じて—）伊勢公演 22日
29日	●共催講座（古事記）を読む（下巻）「敏達天皇」白山芳太郎（文学部教授）
3月	●マレーシア短期語学研修 3月21日
7日	●共催講座「1日・短期講習会（神道—とはじめ）
10日	●岡田芳幸（研究開発推進センター教授・学芸員）
14日	●一般後期入試
18日	●共催講座（古事記）を読む（下巻）「用明—推古天皇」
21日	●白山芳太郎（文学部教授）
28日	●学芸員「修了証書授与式（卒業式）」
31日	●攻めの社会人養成講座・特別集中講座（最高の就職のためにいま何をすべきか）津田栄（経済・金融・キャリア・危機管理・経営・人事・山田俊彦）
4月	●共催講座（神道と仏教「当麻寺における神仏習合と神仏分離」
8日	●河野訓（文学部教授）
10日	●新入生入学式
14日	●学内企業説明会
18日	●共催講座「1日・短期講習会（原文で読む『日本書紀』神代巻）
21日	●松本丘（文学部教授）
28日	●一般後期入試
31日	●白山芳太郎（文学部教授）
4月	●学芸員「修了証書授与式（卒業式）」
7日	●攻めの社会人養成講座・特別集中講座（最高の就職のためにいま何をすべきか）津田栄（経済・金融・キャリア・危機管理・経営・人事・山田俊彦）
8日	●共催講座（神道と仏教「当麻寺における神仏習合と神仏分離」
9日	●河野訓（文学部教授）
10日	●新入生入学式
11日	●学内企業説明会
13日	●共催講座「1日・短期講習会（原文で読む『日本書紀』神代巻）
14日	●松本丘（文学部教授）
15日	●一般後期入試
17日	●白山芳太郎（文学部教授）
22日	●学芸員「修了証書授与式（卒業式）」
23日	●攻めの社会人養成講座・特別集中講座（最高の就職のためにいま何をすべきか）津田栄（経済・金融・キャリア・危機管理・経営・人事・山田俊彦）
29日	●共催講座（神道と仏教「当麻寺における神仏習合と神仏分離」
30日	●河野訓（文学部教授）
5月	●一般前期入試 31日
10日	●秋学期通常講義再開
14日	●学長年頭講話・学内成人式
17日	●伊勢学・鈴木健一（伊勢市長）講演
22日	●大学入試センター試験 18日
23日	●史学会講演会（伊勢の大神宮と東大寺大仏造立）岡田登（文学部教授）
29日	●共催講座（神道と仏教「上野・寛永寺における神仏習合と神仏分離」
30日	●河野訓（文学部教授）
5月	●一般前期入試 31日
10日	●秋学期通常講義終了
14日	●第10回立志塾（これからの日本—少子高齢多死社会をどう生きるか—）
17日	●田尾憲男（本学特別招聘教授）
22日	●共催講座（神道と仏教「戸隠における神仏習合と神仏分離」
23日	●大島信生（文学部教授）
27日	●ふるさと講座（名張の言語調査）齋藤平（文学部教授）
28日	●4教卒業記念ミラージュ（シンボル大冒険！—こころのコンパスを信じて—）伊勢公演 22日
29日	●共催講座（古事記）を読む（下巻）「敏達天皇」白山芳太郎（文学部教授）
3月	●マレーシア短期語学研修 3月21日
7日	●共催講座「1日・短期講習会（神道—とはじめ）
10日	●岡田芳幸（研究開発推進センター教授・学芸員）
14日	●一般後期入試
18日	●共催講座（古事記）を読む（下巻）「用明—推古天皇」
21日	●白山芳太郎（文学部教授）
28日	●学芸員「修了証書授与式（卒業式）」
31日	●攻めの社会人養成講座・特別集中講座（最高の就職のためにいま何をすべきか）津田栄（経済・金融・キャリア・危機管理・経営・人事・山田俊彦）
4月	●共催講座（神道と仏教「当麻寺における神仏習合と神仏分離」
8日	●河野訓（文学部教授）
10日	●新入生入学式
14日	●学内企業説明会
18日	●共催講座「1日・短期講習会（原文で読む『日本書紀』神代巻）
21日	●松本丘（文学部教授）
28日	●一般後期入試
31日	●白山芳太郎（文学部教授）
4月	●学芸員「修了証書授与式（卒業式）」
7日	●攻めの社会人養成講座・特別集中講座（最高の就職のためにいま何をすべきか）津田栄（経済・金融・キャリア・危機管理・経営・人事・山田俊彦）
8日	●共催講座（神道と仏教「当麻寺における神仏習合と神仏分離」
9日	●河野訓（文学部教授）
10日	●新入生入学式
11日	●学内企業説明会
13日	●共催講座「1日・短期講習会（原文で読む『日本書紀』神代巻）
14日	●松本丘（文学部教授）
15日	●一般後期入試
17日	●白山芳太郎（文学部教授）
22日	●学芸員「修了証書授与式（卒業式）」
23日	●攻めの社会人養成講座・特別集中講座（最高の就職のためにいま何をすべきか）津田栄（経済・金融・キャリア・危機管理・経営・人事・山田俊彦）
29日	●共催講座（神道と仏教「当麻寺における神仏習合と神仏分離」
30日	●河野訓（文学部教授）
5月	●一般前期入試 31日
10日	●秋学期通常講義再開
14日	●学長年頭講話・学内成人式
17日	●伊勢学・鈴木健一（伊勢市長）講演
22日	●大学入試センター試験 18日
23日	●史学会講演会（伊勢の大神宮と東大寺大仏造立）岡田登（文学部教授）
29日	●共催講座（神道と仏教「上野・寛永寺における神仏習合と神仏分離」
30日	●河野訓（文学部教授）
5月	●一般前期入試 31日
10日	●秋学期通常講義終了
14日	●第10回立志塾（これからの日本—少子高齢多死社会をどう生きるか—）
17日	●田尾憲男（本学特別招聘教授）
22日	●共催講座（神道と仏教「戸隠における神仏習合と神仏分離」
23日	●大島信生（文学部教授）
27日	●ふるさと講座（名張の言語調査）齋藤平（文学部教授）
28日	●4教卒業記念ミラージュ（シンボル大冒険！—こころのコンパスを信じて—）伊勢公演 22日
29日	●共催講座（古事記）を読む（下巻）「敏達天皇」白山芳太郎（文学部教授）
3月	●マレーシア短期語学研修 3月21日
7日	●共催講座「1日・短期講習会（神道—とはじめ）
10日	●岡田芳幸（研究開発推進センター教授・学芸員）
14日	●一般後期入試
18日	●共催講座（古事記）を読む（下巻）「用明—推古天皇」
21日	●白山芳太郎（文学部教授）
28日	●学芸員「修了証書授与式（卒業式）」
31日	●攻めの社会人養成講座・特別集中講座（最高の就職のためにいま何をすべきか）津田栄（経済・金融・キャリア・危機管理・経営・人事・山田俊彦）
4月	●共催講座（神道と仏教「当麻寺における神仏習合と神仏分離」
8日	●河野訓（文学部教授）
10日	●新入生入学式
14日	●学内企業説明会
18日	●共催講座「1日・短期講習会（原文で読む『日本書紀』神代巻）
21日	●松本丘（文学部教授）
28日	●一般後期入試
31日	●白山芳太郎（文学部教授）
4月	●学芸員「修了証書授与式（卒業式）」
7日	●攻めの社会人養成講座・特別集中講座（最高の就職のためにいま何をすべきか）津田栄（経済・金融・キャリア・危機管理・経営・人事・山田俊彦）
8日	●共催講座（神道と仏教「当麻寺における神仏習合と神仏分離」
9日	●河野訓（文学部教授）
10日	●新入生入学式
11日	●学内企業説明会
13日	●共催講座「1日・短期講習会（原文で読む『日本書紀』神代巻）
14日	●松本丘（文学部教授）
15日	●一般後期入試
17日	●白山芳太郎（文学部教授）
22日	●学芸員「修了証書授与式（卒業式）」
23日	●攻めの社会人養成講座・特別集中講座（最高の就職のためにいま何をすべきか）津田栄（経済・金融・キャリア・危機管理・経営・人事・山田俊彦）
29日	●共催講座（神道と仏教「当麻寺における神仏習合と神仏分離」
30日	●河野訓（文学部教授）
5月	●一般前期入試 31日
10日	●秋学期通常講義再開
14日	●学長年頭講話・学内成人式
17日	●伊勢学・鈴木健一（伊勢市長）講演
22日	●大学入試センター試験 18日
23日	●史学会講演会（伊勢の大神宮と東大寺大仏造立）岡田登（文学部教授）
29日	●共催講座（神道と仏教「上野・寛永寺における神仏習合と神仏分離」
30日	●河野訓（文学部教授）
5月	●一般前期入試 31日
10日	●秋学期通常講義終了
14日	●第10回立志塾（これからの日本—少子高齢多死社会をどう生きるか—）
17日	●田尾憲男（本学特別招聘教授）
22日	●共催講座（神道と仏教「戸隠における神仏習合と神仏分離」
23日	●大島信生（文学部教授）
27日	●ふるさと講座（名張の言語調査）齋藤平（文学部教授）
28日	●4教卒業記念ミラージュ（シンボル大冒険！—こころのコンパスを信じて—）伊勢公演 22日
29日	●共催講座（古事記）を読む（下巻）「敏達天皇」白山芳太郎（文学部教授）
3月	●マレーシア短期語学研修 3月21日
7日	●共催講座「1日・短期講習会（神道—とはじめ）
10日	●岡田芳幸（研究開発推進センター教授・学芸員）
14日	●一般後期入試
18日	●共催講座（古事記）を読む（下巻）「用明—推古天皇」
21日	●白山芳太郎（文学部教授）
28日	●学芸員「修了証書授与式（卒業式）」
31日	●攻めの社会人養成講座・特別集中講座（最高の就職のためにいま何をすべきか）津田栄（経済・金融・キャリア・危機管理・経営・人事・山田俊彦）
4月	●共催講座（神道と仏教「当麻寺における神仏習合と神仏分離」
8日	●河野訓（文学部教授）
10日	●新入生入学式
14日	●学内企業説明会
18日	●共催講座「1日・短期講習会（原文で読む『日本書紀』神代巻）
21日	●松本丘（文学部教授）
28日	●一般後期入試
31日	●白山芳太郎（文学部教授）
4月	●学芸員「修了証書授与式（卒業式）」
7日	●攻めの社会人養成講座・特別集中講座（最高の就職のためにいま何をすべきか）津田栄（経済・金融・キャリア・危機

皇學館の
来歴
番外編

神宮皇學館の入学試験

研究開発推進センター 准教授

大
平
和
典

神宮皇學館の卒業生については、『皇學館大學百三十年史』資料篇一にも複製した『神宮皇學館一覽』昭和十六年度・昭和十七年度版に、附表として「卒業年次別人員表」「卒業者出身並在住府県別表」「卒業者科別及職業別表」が収められているので、これによって卒業生数・出身地・職業を統計的に把握することができる。

一方、神宮皇學館の志願者についてはまとまった統計が見当たらず、『神宮皇學館一覽』各年度分や『館友』誌各号を繙く必要がありそうであることから、今

回約資料を作成し、その一音をここに掲載させていただくこととした。(受験の全国的傾向については言及する余裕がなく、竹内洋氏『立志・苦学・出世 受験生の社会史』(講談社現代新書・平成三年刊)等参照されたい)。

まず神宮學館本科・普通科の年度ごとの志願者数・受験者数・合格者数の推移は、表のとおりである。ただし『館友』に記載のある明治四十四年度以降。専科など割愛した。

このうち、普通神職養成を目的とする普通科への入学は、神職及び神職に準ずべき者の子弟と限定されていた。

本科志願者の父兄の職業をみてみると、『神宮皇學館一覽』に年度ごとの統計が掲載されている昭和三年度以降の十二年間に限れば、志願者総数五一〇五名、うち神職八二四名（一六・一％）、教員五六六名（一一・一％）、官公吏五四二名（一〇・六％）、農業一二四名（二・三・八％）、工業八十九名（一・七％）、商業六三八

名(二・五%)、神道教師六十四名(一・三%)、僧侶六十二名(一・二%)、銀行員・会社員三四二名(六・七%)、軍人四十名(〇・八%)、医師六十三名(一・二%)、職人三十九名(〇・八%)、無職四六三名(九・一%)、その他(庶業等)、となっている。

次に出身地は、卒業生の出身地の一覧が先述の『神宮皇學館一覽』昭和十六年度・昭和十七年度の附表「卒業者出身並在住府県別表」によって確認できる。志願者の出身地も傾向としては同じであるが、念のために示すと（ただしこちらも父兄の職業と

三日間に及んだ学
入学試験については変遷があるが、大正十五年度本科を例にみると、三月二十五日～二十七日の三日間、学科試験を実施。

三日間に及んだ学科試験

ひなむ」両句の異なる説明、主語を持たない述語について主語を補う問題二問、口語文の力行変格活用を問う問題。

と同様に『神宮皇學館一覽』昭和三年度以降掲載されている十二年間の志願者に限る、多い順に、三重九・五％（四八四名）、愛知七・九％（四〇四名）、福岡七・六％（三八八名）、兵庫五・九％（三三〇名）、大阪五・五％（二七九名）が多く、以下大分（二八一名）、広島（一七九名）、岡山（一七七名）、静岡（一六七名）、岐阜（二五九名）、鹿児島（二五六名）、山口（一四二名）、京都（二四一名）、香川（二三名）、奈良（一六名）、和歌山・熊本（各一一〇名）、愛媛（一一〇九名）、長崎（一一二名）と続く。

この他、仮名に漢字をあてる問題も出題されている。

【漢文】

「敵愾」「汗青」「慎終追遠」などの解釈六問、白文に句読点・送り点・送り仮名を付す問題二問（方孝孺『遜志齋集』と藤田東湖『回天詩史』から一問ずつ）。

【作文】
課題「自らを知れ」。

【国史】

「江戸時代初期に於ける海外貿易」「奈良時代に於ける国史地誌の撰修」「鎌倉時代の新宗教」「聚楽第」「北畠親房」「古河公方」の論述六題。

【外国史】

東洋史は「清聖祖（康熙帝）の事蹟」「班超」「Plasseyの戦い」、西洋史は「フランス大革命の原因」「The Hegira」「Sarajevo」のそれぞれについて論述。

【英語】 英文和訳四題、和文英訳一題。
英訳の問題は、「最近僕ハ古朝鮮
ノ歴史ト芸術ト音楽トニ接シ

“合格者は八名に一名”の最難関

なお『伊勢新聞』・昭和十八年度全国上級学校年鑑(旺文社刊)・昭和十九年度全国上級学校綜覧(同)によつて神宮皇學館大學の競争率についてもみてみると(前二者は『皇學館大學百三十年史』資料篇二に該当部分を収録、予科(入学定員六十名)は昭和十五年度は志願者三九一

名々の最難関

じられてゐる（三月二十六日付）。十七年度は競争率六・五倍さらに昭和十八年度には志願者一〇八二名（『全国上級学校年鑑』による。『伊勢新聞』では一二二七名）・受験者七三四名・入学者六十四名で競争率は一一・五倍に跳ね上がっている。十九年度も七・三倍。

名・受験者二七九名、合格者六十三名で競争率は四・四倍。翌十六年度には志願者六七五名・受験者四七八名に対し合格者六十三名、競争率は七・六倍となり、『伊勢新聞』には「合格者は八名に一名といふ割合で全国の高等専門程度の学校中に於ける最難関であるため物凄い受験地獄を現出して受験者は何れも悲壮

附屬専門部も、昭和十六年度には入学定員四十名に対して志願者数一四二名・受験者数一七名、十七年度は志願者一〇六名・受験者八十八名、十八年度には志願者二二四名（受験者数不明）、十九年度には志願者三九名・受験者一九九名・合格者数三十名で競争率六・六倍という難関であった。

【表】明治44年以降の志願者・受験者・合格者数

	年 度	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	競 争 率	入学資格等
本 科	明治44	30	75		31	2.4	中学校卒業程度、 4 年制
	45	30	85		34	2.5	
	大正 2	30					
	3	30	85		30	2.8	
	4	30	75	70	30	2.3	
	5	40	96	88	40	2.2	
	6	40	111	102	32	3.2	
	7	40	89		36	2.5	
	8	40		81	35	2.3	
	9	40	70	60	30	2.0	
	10	40	101		40	2.5	
	11	40	144	106	42	2.5	
	12	40	193	183	67	2.7	
	13	40	305	277	80	3.5	
	14	80	383	345	81	4.3	
	15	80	451	416	84	5.0	
	昭和 2	80	489	452	73	6.2	
	3	80	649	592	85	7.0	
	4	80	574	505	80	6.3	
	5	80	543		86	6.3	
	6	50	501	454	54	8.4	
	7	50	372	330	56	5.9	
	8	50	358	316	57	5.5	
	9	50	298	271	61	4.4	
	10	50	308	273	59	4.6	
	11	50	340	304	59	5.2	
12	50	352	327	61	5.4		
13	50	430	391	64	6.1		
14	50	380	337	61	5.5		
普 通 科	昭和 2	25	34		25	1.4	高等小学校卒業 程度、4 年制
	3	25			25		
	4	25	77		25	3.1	
	5	25	71		26	2.7	
	6	25	81		25	3.2	
	7	25	65		26	2.5	尋常小学校卒業、 5 年制
	8	25	49		26	1.9	
	9	25	59		25	2.4	
	10	25	66		26	2.5	
	11	25	55		25	2.2	
	12	25	58		24	2.4	
	13	25	66		26	2.5	
	14	25	60		29	2.1	

備考：主として『館友』各号・『神宮皇學館一覽』各年度による。空欄は記載なし。競争率は

$$\text{〔志願者数} \div \text{合格者数〕}$$
とし、志願者数の記載がない場合は受験者数で算出した。

[illegible]